

名寺Ⅰ式のもの。42はP8出土で安山岩製の磨石で半ばを欠失する。43～46はP11出土でいずれも胎土に植物繊維を含み、43と44は条痕文、45は斜縄文をもつ。P11は早期後半又は末といえる。46は安山岩製磨石の半欠品。47はP12出土の無文片。48～50はP18出土で繊維を含む土器と結節縄文をもつ。51はP19出土で隆帯上に刻目をもつ。

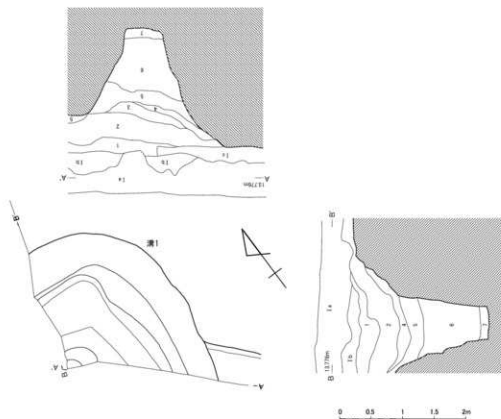
【溝1出土土器】(第70図52～60)

52は押しと刺突著しく赤褐色を呈す。53は沈線で波状文を作り、54は胎土に金雲母と石英を含む。55と56は地文縄文。57は磨消懸垂文をもつ加曾利EⅡ式。

58は条線文のみの割部片。59は無文口縁で地文条線の小片。60は緑泥片岩製の板破破片。鉄滓片も出土した。

【遺構外の土器】(第70図1～27)

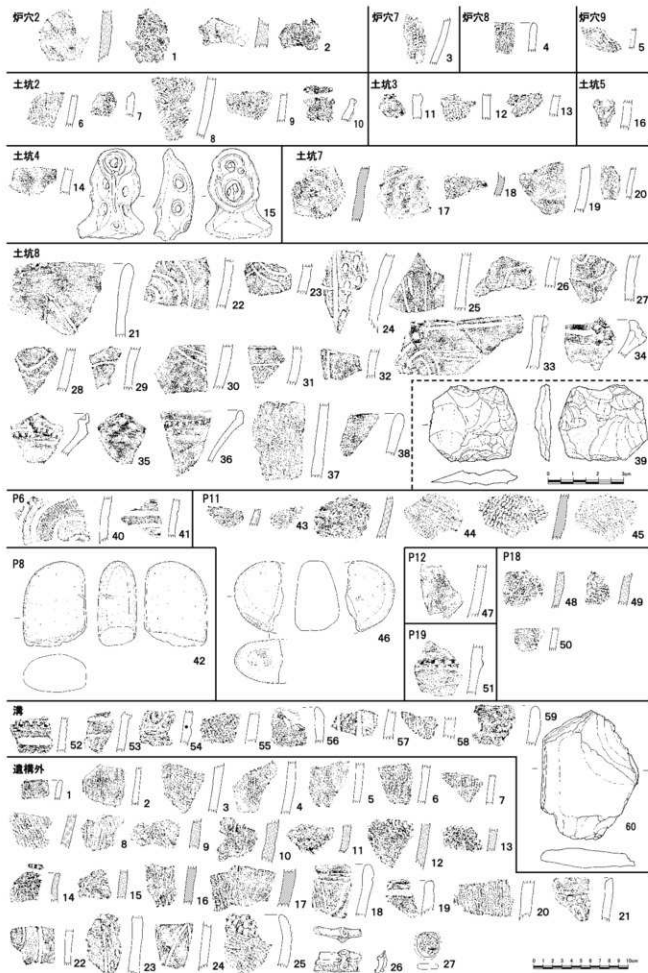
1～7は擦糸文土器、8～17は胎土に植物繊維を多く含み、8は表裏条痕、12と13は植物繊維雑痕、14と15は同一個体。8～17は早期後半～末葉だが細分困難。18～20は地文条線の土器群で18は連弧文で加曾利EⅡ末併行。21～24は磨消部を刺突する称名寺Ⅱ式。25は列点文の他は地文縄文のみ。26は浅鉢の口縁部で8字状隆帯を貼付ける薄手で堀之内式。27は側面調整の著しい土製円板。



溝1

- 1 a. 黒褐色土 粘り有、粘性やや弱、ローム粒(2mm以下)～ローム塊(5～10mm)均一にやや多量、焼土(2mm以下)わずか
- 1 b. 暗褐色土 粘り有、粘性やや弱、色調暗め、ローム粒(2mm以下)少量、ローム塊(5～10mm)わずか
- 1 c. 黒褐色土 粘りやや弱、粘性やや弱、ローム塊(5～10mm)均一に少量、ローム粒(5mm以下)少量、磨消痕
2. 暗褐色土 粘り有、粘性やや弱、ローム粒(2mm以下)多量、硬質の黒褐色土塊(5mm以下)少量、ベースの土は色調が暗いものと明るいものが混ざり合い、うすすらと斑状を呈す、円礫(10～15mm)わずか
2. 黒褐色土 粘り有、粘性やや弱、ローム塊(5～15mm)少量、ローム粒(3mm以下)均一にやや多量、硬質の黒褐色土塊少量、円礫(10～15mm)わずか
3. 暗褐色土 粘り有、粘性やや弱、2-4層の土の中間的な色調、暗褐色土に黒褐色土がしみこんだ様に含まれる、ローム塊(5～10mm)わずか、ローム粒(2mm以下)やや多量、円礫(10～20mm)わずか
4. 暗褐色土 粘り有、粘性やや弱、ローム粒(5mm以下)多量含み色調は明るい、黒色土粒(3mm以下)わずか
5. 暗褐色土ベース 粘り有、粘性やや弱、暗褐色土ベースでローム粒主体、ローム塊(10～20mm)やや多量、黒色土粒(3mm以下)わずか
6. 暗褐色土ベース 粘り有、粘性弱、ローム粒(粗粒5mm次)主体、ローム塊(最大2.5cmのものまで)多量
7. 黒褐色土 粘り有、粘性弱、灰色味のある黒褐色土、ローム塊(5～20mm)やや多量

第66図 淨禪寺跡遺跡第26地点溝(1/60)



第67図 浄禅寺跡遺跡第26地点炉穴・土坑・ピット・溝・遺構外出土遺物 (1/4・2/3)

Ⅲ 淨禪寺跡遺跡第28地点

(1) 調査の概要

調査は幼稚園舎改築工事用仮設事務所建設に伴うもので、原因者より2007年1月16日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲外であったが、1,000㎡を超える開発のため内規にしたがい、申請者と協議の結果、遺跡の範囲を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年1月23日に行った。幅約2mのトレンチを1本設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査した結果、一部で遺構らしき覆土を検出したため、掘り下げて確認したところ、時期不明の溝であった。確認面までは90～120cmの深さが有り、仮設事務所工事の掘削による影響がないため、検出した遺構の写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋

め戻し、調査を終了した。

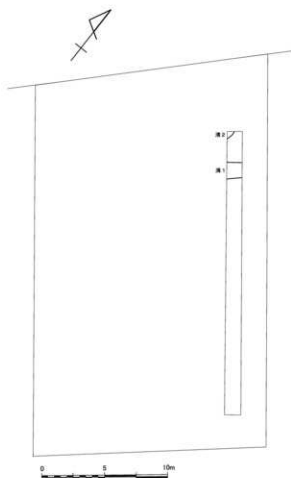
なお、今回の調査では時期不明の溝であったが、2007年9月に隣接する遺跡範囲内を調査した結果、中世末から近世初頭の遺構群を検出し、同時期の溝が本地点の溝と連なる可能性が出てきたため、2008年2月遺跡範囲の変更増補を行った。

(2) 遺構

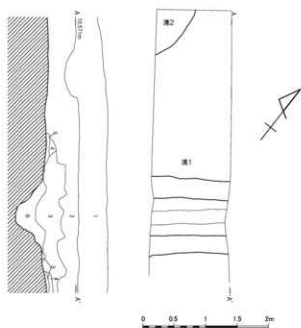
【溝】調査区北側で東西方向の溝を1条、北から西へカーブする溝を1条検出した。

第32表 淨禪寺跡遺跡第28地点遺構一覧 (単位m)

	断面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝1	V字形	120～	22～	47	
溝2	V字形	～	～		



第68図 淨禪寺跡遺跡第28地点調査区域図 (1/300) 溝 (1/60)



トレンチ東壁

- 暗褐色土 灰土・腐土 締り有、粘性有。最上部は灰白色砂礫、ローム多量層、ビニール含む
- 高褐色土 灰土・腐作土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)多量、炭化物・鉄土少量、鉄間溝の下部には黒褐色土・ローム多量層
- 黒褐色土 灰土・腐作土 締り強、粘性有、ローム粒(1mm以下)少量、腐土(1mm以下)わずか、炭化物(5mm大)わずか、2層に比し色調は暗い
- 暗褐色土 地山 締り強、粘性有、層移層、しみ状に高褐色土、ややボンボリしている
- 暗黄褐色土 地山 締り強、粘性有、ツブクロム層、やや水つきでのびたしている、色調は暗い
- 高褐色土 締り強、粘性有、ローム塊(5～30mm)少量、ローム粒(2mm以下)少量、腐化土(5mm以下)やや多量、ベースの土は、粘りが弱く、水つき、乾縮によりクラック多量、土質は近世以降の印象を受ける

第20章 大井宿遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

大井宿遺跡は国道254号線川越街道沿いの旧大井宿の宿場範囲内にある。大井宿は全長約1.5kmで、砂川堀右岸の標高27mの台地上から始まり、砂川堀を渡って左岸の標高21～22mの低位台地上に位置する。

大井宿の南側約半分は大井氏館跡遺跡に含まれており、既に遺跡の登録がされている。2000年に遺跡範囲外の2ヶ所の試掘調査により、多数の遺構と遺物が確認されたため、大井宿の北側部分を新たに遺跡の範囲とし遺跡名を設けた。

川越街道は江戸時代の寛永年間（1624～1643）に整備された日本橋から川越に至る11里（約44km）の道の呼称で、街道に存在した6つの宿駅（上板橋・下練馬・白子・膝折・大和田・大井）の1つが大井宿である。

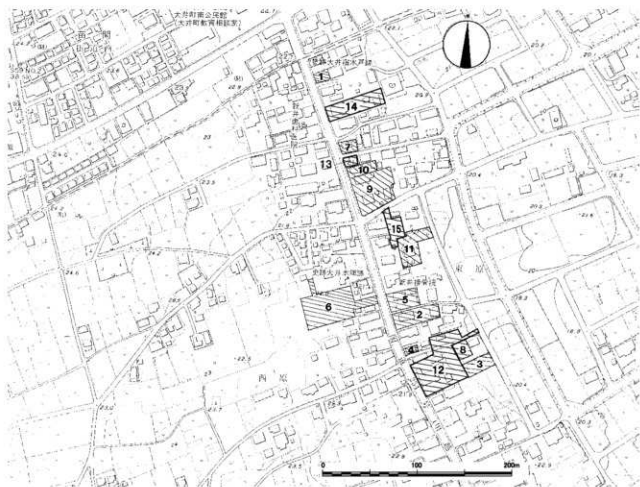
大井宿遺跡では2008年3月現在、12ヶ所で調査が行なわれ、中世～近代の遺構・遺物が検出されている。

II 大井宿遺跡第12地点

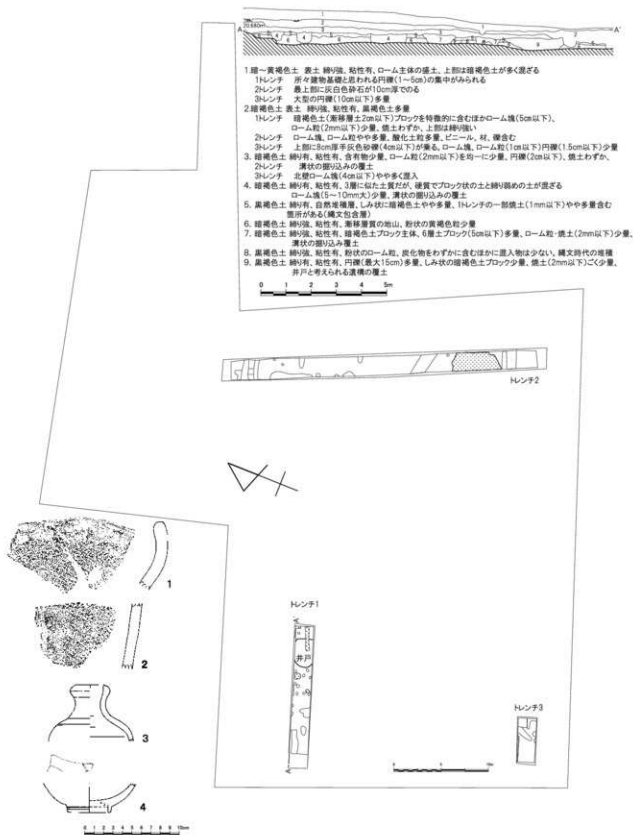
(1) 調査の概要

調査は店舗建設に伴うもので、原因者より2006年5月9日付で、「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央、川越街道に面して立地しているため申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年6月13日から同年6月16日まで行った。幅約2mのトレンチを3本設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査したところ、遺構らしき黒色土を確認した。出土遺物と覆土から、縄文時代のピットと近世以降の井戸・溝・ピット等と思われる。確認面まで70～90cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。建築による遺構への影響がないため慎重工事とし、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋戻し調査を終了した。



第69図 大井宿遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第70図 大井宿遺跡第12地点調査区域図(1/400)土層図(1/150)出土遺物(1/4)

第33表 大井宿遺跡第12地点出土遺物観察表

(単位:cm)

遺構	No	種別・器種	口径・長	底径・幅	器高・厚	技法・文様/その他	推定生産地	推定年代	残存・備考
トレンチ1表土	3	陶器・徳利・五合徳利	(4,2)			ロクロ成形/灰釉。	瀬戸・美濃	1830~1860年代	口縁部破片
トレンチ1表土	4	細器・碗・厚手碗		(4,6)		ロクロ成形/染付・梅樹文。	肥前	1690~1800年代	底部破片

Ⅲ 大井宿遺跡第13地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より2006年7月14日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央、川越街道に面して立地しているため申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年8月21日に行った。幅約2mのトレンチ2本を設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、ピット・土坑等の遺構覆土を多数確認した。確認面まで30cmしかないうえ、パイル

を打ち込み住宅基礎建設のため、本調査を実施することになった。

本調査は2006年8月22日から同年8月30日まで、住宅建設予定範囲を重機で表土除去後、人力による調査を行なった。調査の結果検出した遺構は近世以降の土坑8基、ピット57基である。写真撮影・遺構測量等記録保存を行ない、重機で埋戻し調査を終了した。

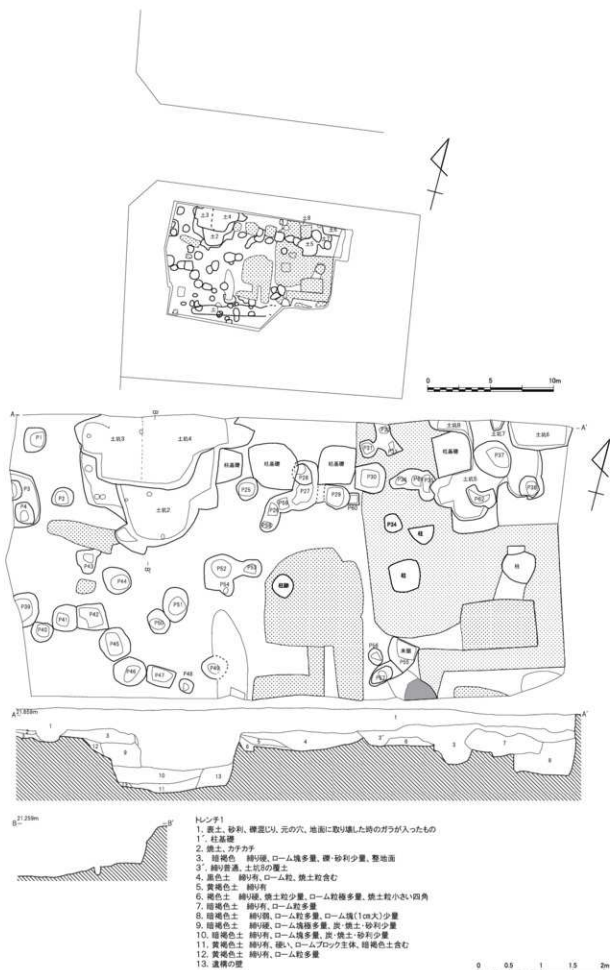
(2) 遺構と遺物

近世陶磁器、銭貨等が出土した。P51からは「天下第一」の刻印がある分銅が出土した。第35表参照。

第34表 大井宿遺跡第13地点土坑・ピット一覧表(単位cm)

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
土坑1	長方形	×48	×35	11	土器・播鉢出土
土坑2		220×	300×	85	土坑3→土坑2・土坑4の順に構築 磁器・陶器・焙烙・瓦・銭出土
土坑3		280×	230×	100	
土坑4		165×	145×	60	
土坑5		100×75	75×70	60	
土坑6		×	×	75	土坑7より古、播鉢出土
土坑7		125×	110×	45	土坑6・8より新 無首銭・焙烙出土
土坑8		×	×	60	土坑7より古
P1	方形	37×35	25×23	27	縄文土器出土
P2	楕円形	35×30	21×19	30	
P3		30×	21×	19	
P4	楕円形	35×30	15×12	50	
P5	方形	28×26	20×18	44	
P6	長方形	35×20	18×8	26	
P7	方形	30×30	14×14	43	
P8	楕円形	44×35	26×22	61	
P9	方形	40×25	15×12	32	
P10	楕円形	40×32	10×6	34	
P11	楕円形	40×	14×5	42	
P12	楕円形	30×	4×4	42	
P13	方形	22×	16×12	14	
P14	楕円形	38×	25×6	22	
P15	楕円形	23×	16×6	25	
P16	楕円形	50×36	40×18	50	
P17		38×	22×	36	
P18	楕円形	35×32	12×10	46	
P19	楕円形	30×25	14×10	11	
P20	長方形	80×45	60×30	58	
P21		25×	15×10	23	
P22		40×	15×10	39	
P23		40×	18×18	43	
P24	楕円形	38×26	18×18	21	
P25	方形	34×32	24×20	36	
P26		25×	18×15	22	陶磁器・銭出土

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P27	楕円形	64×45	35×25	37	
P28	楕円形	40×28	20×18	62	
P29	方形	40×37	30×28	35	
P30	方形	48×48	28×28	52	
P31	方形	27×22	16×16	13	鉄釘出土
P32	方形	24×20	12×12	30	
P33	方形	25×22	11×7	30	
P34	方形	30×26	12×12	33	
P35	長方形	48×	27×12	28	
P36		22×	18×14	13	土器片出土
P37	楕円形	62×55	42×27	70	
P38	楕円形	34×30	22×15	41	
P39		52×	35×	26	瓦出土
P40	楕円形	35×26	20×17	33	紙石出土
P41	方形	42×40	20×20	43	
P42	方形	47×72	34×30	18	
P43	不整形	37×32	15×13	13	
P44	楕円形	50×42	30×22	36	
P45	長方形	50×46	36×24	33	
P46	楕円形	54×46	30×17	35	
P47	長方形	45×30	35×20	36	
P48	楕円形	24×22	12×8	38	
P49	楕円形	42×38	20×14	44	
P50	楕円形	40×32	25×16	41	分銅・磁器出土
P51	楕円形	55×40	28×26	30	鉄釘・陶器出土
P52	楕円形	65×45	30×30	43	
P53	楕円形	32×27	20×15	43	
P54		25×	10×7	25	
P55		47×45	37×23		瓦出土
P56	楕円形	28×22	18×12	19	
P57	楕円形	52×25	17×10	45	
P58		26×	15×10	54	
P59	方形	30×	15×15	15	
P60	方形	18×16	12×12	7	
P61	方形	32×	15×15	17	
P62	不整形	52×25	35×14	54	
P63		22×	16×	34	



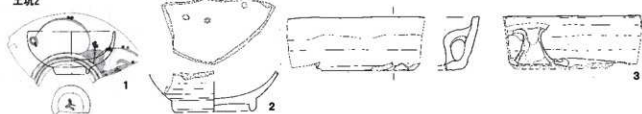
第71図 大井宿遺跡第13地点遺構配置図(1/300) 遺構平面図・土層図(1/60)

第35表 大井宿遺跡第13地点出土遺物観察表

(単位cm)

遺構	No	種別・器種	口径・長	底径・幅	器高・厚	技法・文様・その他	推定生産地	推定年代	残存・備考
土坑2	1	磁器・碗・厚手碗	9.3	3.6	4.5	ロクロ成形/染付、梅樹文。底裏跡あり。	肥前	1690~1800年代	1/2以上残存
土坑2	2	陶器・鉢		(8.6)		ロクロ成形/灰釉。見込みにトチン跡。	瀬戸・美濃	近世	底部破片
土坑2	3	土器・焙烙			5.7	紐作り成形、外面口縁部横線で、内耳粘土紐を貼付け。底裏地輪目/赤色粒砂、白色粘土がマーブル状に混入。/補修用の穿孔5ヶ所あり。	在地	近世	1/4以下残存
土坑2	4	鉄貨・銅銭・寛永通宝	2.36	孔幅0.69	0.07	寛永通宝「新寛永」元文、亀戸銭、1.40g。		1737年初铸	定形
土坑2	5	鉄貨・鉄銭・寛永通宝	2.55	孔幅0.68	0.23	寛永通宝「鉄寛永」3.03g。		1765年初铸	定形
土坑7	6	銅製品・彈管・匣首 銭	2.43	孔幅0.75	0.14	匣首、0.67g。			
P1	7	土器・縄文土器						縄文時代	底部
P26	8	鉄貨・銅銭・寛永通宝	2.21	孔幅0.64	0.13	寛永通宝「新寛永」寛保元年、高津銭。裏面に「元」2.02g。		1741年初铸	定形
P31	9	鉄製品・釘		0.64	0.59	角釘			頭部欠
P40	10	石製品・砥石				表裏側4面砥面。細筋状に端部が磨り減る。側面に摺り状クガネ痕。	凝灰岩		定形
P50	11	磁器・碗・筒茶碗	7.2	3.6	5.5	ロクロ成形/染付。口縁内側四方博文、見込み圓縁とコンニャク印製五弁花? 外面風景、表文様。	肥前	1700~1810年代	1/2以上残存
P50	12	真鍮製品・分銅	3.43	1.43	1.41	標秤の分銅。表「天下」裏「」の期印あり。重、47.2g。		近世	定形
P51	13	陶器・碗・薄茶碗	(7.6)			ロクロ成形/灰釉		近世	口縁部破片。
P51	14	鉄製品・釘		0.58	0.50	角釘			頭部欠

土坑2



P1



P26



P31



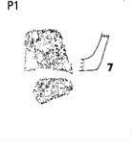
P40



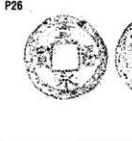
土坑7



P1



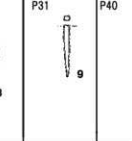
P26



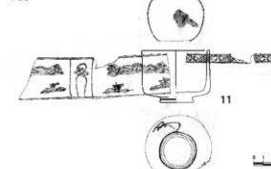
P31



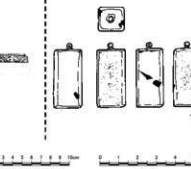
P40



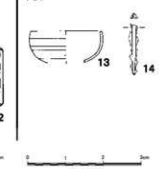
P50



P50



P51



第72図 大井宿遺跡第13地点出土遺物 (1/4・1/2・1/1)

M 大井宿遺跡第14地点

(1) 調査の概要

調査はコンテナボックス設置に伴うもので、原因者より2007年2月26日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央、川越街道に面して立地しているため申請者と協議の結果、遺構確認の試掘調査を実施した。

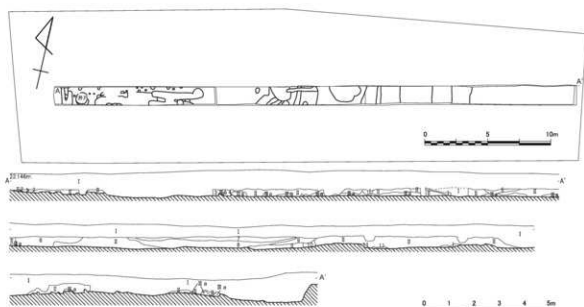
試掘調査は2007年3月27日から同年3月29日まで行

った。幅約2mのトレンチを1本設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査した結果、遺構らしき黒色土を確認した。出土遺物と覆土から、近世以降の井戸・土坑・建物跡・ピット等と思われる。確認面まで60~100cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。工事による遺構への影響がないため工事立会いとし、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。

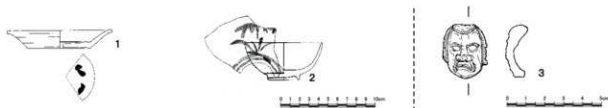
第36表 大井宿遺跡第14地点出土遺物観察表

(単位:cm)

遺構	No	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	器高・厚	技法/文様/その他	推定生産地	推定年代	残存・備考
トレンチ1	1	磁器・碗・厚手碗	(7.8)	3.1	4.1	ロクロ成形/染付・景文。		肥前	1710~1800年代 1/2以下残存
トレンチ1	2	陶器・灰・灰釉皿	(11.2)	(6.6)	1.9	ロクロ成形/灰釉。見込み底裏面にトナシ跡。	瀬戸・美濃	近世	1/2以下残存
トレンチ1	3	土製品・泥面子・芥子面	2.9	2.3	1.2	型押し整形/	在地	19世紀	完形



1. 多様な土質の現代盛土及びカクラン
おびね粘り弱粘性の赤ローム土主体、コンクリートビニール含む。
上部に粘り弱粘性の黒多量、暗褐色土がのり、最下部に青灰色・緑灰色で薄い砂礫層(厚10cm以下)、その下に粘り強い灰色味のある暗褐色土含む。
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)少量、ローム塊・焼土・漆・炭化物(15mm以下)わずか
3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、赤山、ローム粒わずか、シロ灰の暗褐色土少量含む
4. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)やや多量、炭褐色土少量、若干酸化目立つ
5. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム主体、粘つたよりに硬い
6. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)ローム塊(0.5~7cm)少量
7. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(10mm以下)多量
8. 暗褐色土 粘り強、粘性有、黄灰色シロトやや多量、ローム粒少量、礫(15mm以下)少量
9. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム塊(5cm以下)やや多量、ローム粒少量、礫(5cm以下)少量
10. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)やや多量、礫(3cm以下)少量
11. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(10mm以下)少量
12. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)やや多量、円礫(2cm以下)、炭化物(5mm大)わずか
13. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)少量、磁器片含む(古美濃)
14. 暗褐色土 粘り強、粘性有、黒多量、粘り強い、ソフロームブロック粒(3cm以下)やや多量



第73図 大井宿遺跡第14地点調査区域図(1/300) 土層図(1/150) 出土遺物(1/4・1/2)

第22章 本村遺跡の調査

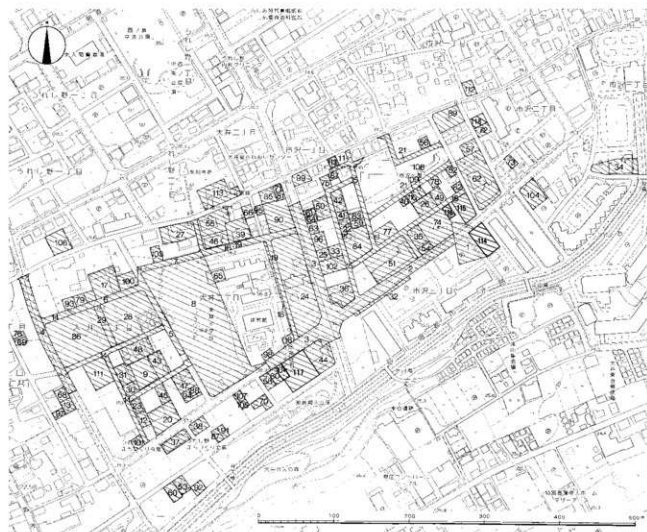
I 遺跡の立地と環境

本村遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約800m、砂川堀の左岸で標高15～20mに位置する。遺跡内には旧砂川の流路であった埋没河川が幾筋も認められ、それに取り残されるように微高地が存在する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。

砂川堀の流域には多くの遺跡で、旧石器時代からの人々の活動の跡をみることが出来る。現在においても砂川の果たす役割は当時にも増して大きいものであるが、残念ながらその役割は大きく異なり、用水機能としての砂川から排水機能の砂川堀と言うのが現在の状況である。市内を流れる砂川堀も河川改修により、その姿を都市下水路に変え、往時を忍ばせる面影は残されていない。

周辺の遺跡では、砂川堀を挟んで縄文時代中期の大集落と奈良平安時代の製鉄関連遺跡である東台遺跡、旧石器時代の大井戸上遺跡と西台遺跡が位置する。左岸には旧石器時代～縄文時代の小田久保遺跡、旧石器時代～近世の大井氏館跡遺跡が位置する。本遺跡が中世から近世にかけての中心集落とするならば、大井氏館跡遺跡は近世川越街道整備以後の中心的な宿場および集落とみることが出来る。いずれにしても、町内における砂川堀流域の本村遺跡周辺は旧石器時代から現代にかけて良好な生活・住環境であったことがわかる。

2008年2月現在118地点で調査を行い、旧石器時代の礫群・石器集中、縄文時代の落し穴・竪穴、中世～近世の掘建柱建物・方形堅穴状遺構・井戸・溝・欄列・地下式坑・茶毘跡等を多数検出している。



第75図 本村遺跡の地形と調査区 (1/5,000)

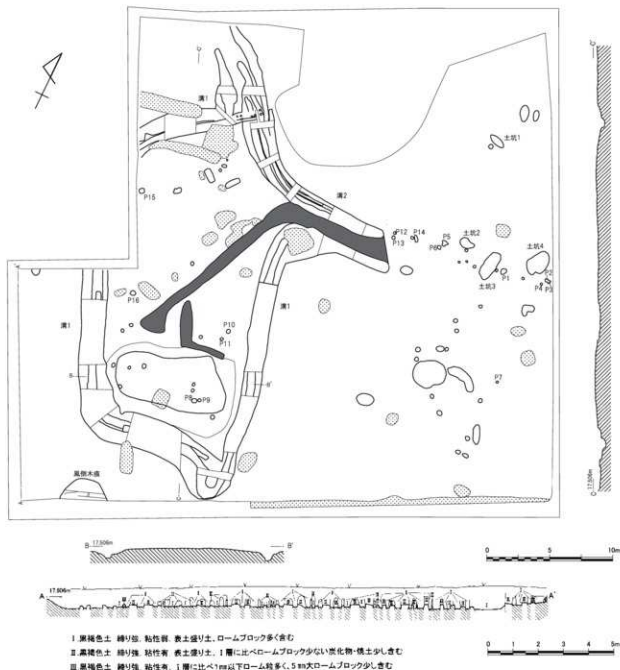
II 本村遺跡第117地点

(1) 調査の概要

調査は店舗建設に伴い、原因者より2006年3月3日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置し、古地名では「権現あと」と呼ばれている一帯であるため、申請者と協議の結果、遺跡の範囲と遺構確認の試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年3月22日～28日、4月5日～14日に行った。表土層を入れ替えるため、申請者が表土の

全面を除去後、人力による表面精査を行った。その結果、「権現あと」と思われる小高い区画と、区画を囲う溝、区画整理で廃道となった道路跡、土坑、溝裂などのプランを確認した。遺構の深さなどを確認するため一部を調査した。地山ローム面までの深さが100cm以上あり、店舗建物の基礎の深さは約70cmであることから、30cmの保護層が確保され遺跡への影響が及ばないため工事立会いの措置をとった。旧石器時代の確認調査は行っていない。検出した遺構の写真撮影・測量等記録保存を行ない調査を終了した。



第76図 本村遺跡第117地点遺構配置図(1/300)土層図(1/150)

(2) 遺構と遺物

古地名では「権現あと」と思われるわずかに小高い長方形の区画と区画を囲う溝、道跡と思われる硬化面、旧道に沿った溝と柵列、土坑、ピット等を検出した。

【長方形区画】調査区の西側に、溝で囲われた長方形区画がある。南北21.5m、東西12m、南東部に幅3m、奥行き5m程の張り出し部分がある。南側は東西9m、南北4.5mの範囲が20cmほど小高くなっている。長方形区画の北東部は旧道と接し、溝も道路跡の部分で途切れている。この旧道と接する部分から、小高い部分へ向って幅80～100cmの硬化面が一直線に延びており道跡と思われる。柱跡等の痕跡はなかったが、小高い部分にはおそらく祠等が配置され、旧道から祠等へ向って参道がまっすぐ延びていたと思われる。

【溝】長方形区画を巡る溝1（f～j）とクランク状に曲がる旧道の東側に掘られた溝2（a～e・k）に大別する。溝1・溝2ともに数次にわたり掘り返されている。

溝1は長方形区画を巡る溝で北東部は旧道に沿って開き「ひ」の字形に屈曲する。北側に開く部分では溝1fが最も古く北へ屈曲しているが、新しく掘り返された溝1iは直進し、溝2を掘り返している。区画整理で廃道となった道はこの炭化材が出土した地点で西に曲がる。道の両側には新しい「イモピット」と呼ばれる長方形土坑が掘られ、溝1を壊している。明治五年作成の公園では道はさらに北へ延びており、溝2aと溝2fが古道の側溝であったと思われる。

溝2はいずれも断面「コ」字形で、溝d→c・k→b→aの順に掘り返されている。溝の位置は西から東に移動しており、次第に道幅が広がっている。

また溝1iの底には柵列の柱穴が並び、平行して径10cmの炭化した丸太が出土した。北へ延びる道を西側へ曲げる道へ付け替えたときに、古道を塞ぐための柵や門の跡等の遺構が想定される。

101地点の調査では溝1の続きを検出しているが、一度埋まった後掘り返し直した溝からは19世紀前半の遺物が出土している。

【柵列】柵列1は溝2の東側に、柵列状のピット列を14mにわたって検出した。ピットは1.8m間隔で配置する。

柵列2は溝1iの底に検出し、炭化した丸太を伴う。

【ピット・土坑】検出した土坑のうち4基を半截して調査した。ピットは17基検出した。

第37表木村道跡第117地点遺構一覧 (単位cm)

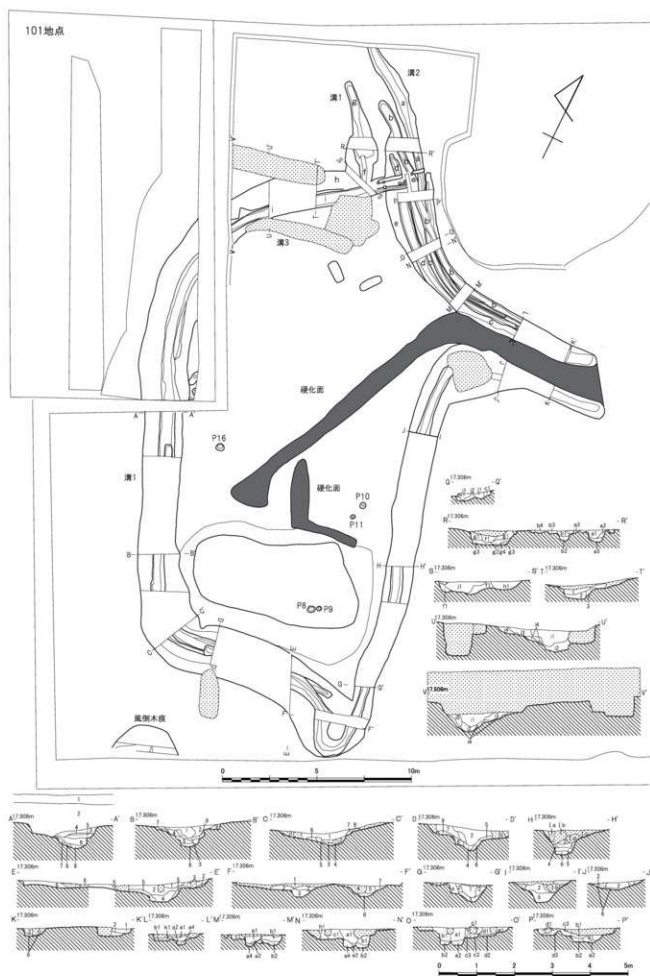
	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝1		210～290	20～60	64	
溝1f		40～52	20～35	42	
溝1g		130～	82～	39	
溝1h		80～	～	20	
溝1i		72～86	32～50	73	
溝1j		20～	10～	25	
溝2a		30～80	20～40	49	
溝2b		32～52	14～40	51	
溝2c		40～50	12～34	30	
溝2d		34～60	18～40	30	
溝2e		60～	～	7	
溝2k		24～	12～	34	
土坑1	楕円形	3×57	×40	18	
土坑2	不整形	130×80	60×	22	
土坑3	楕円形	232×90	×45	35	
土坑4	不整形	230×145	×	51	
P1	楕円形	57×35	10×10	19	
P2	楕円形	30×23	10×5	26	
P3	楕円形	35×30	10×5	42	
P4	円形	28×25	10×10	20	
P5	楕円形	40×32	15×	39	
P6	楕円形	27×23	15×	24	
P7	円形	25×23	15×10	7	
P8	楕円形	44×30	25×15	25	
P9	円形	25×25	15×10	32	
P10	円形	32×30	13×13	19	
P11	楕円形	25×20	10×10	34	
P12	円形	35×34	18×	40	
P13	円形	35×30	18×18	25	
P14	楕円形	47×27	×	54	
P15	楕円形	55×35	18×	27	
P16	円形	45×38	28×19	33	
P17	楕円形	55×35	×20	34	

【出土遺物】(第79図)

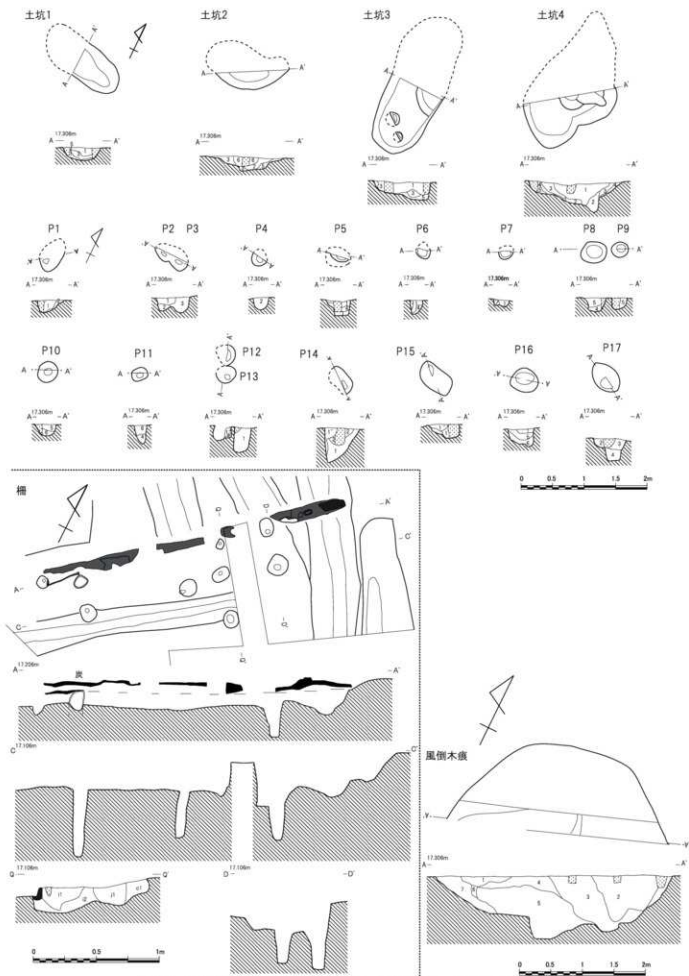
1～14は溝1出土、15、16は溝2出土。17、18は遺構外。

1は櫛状工具による沈線列に先端をV字形に切り込んだ半截竹管工具で押し引いた文線列を加えている。縄文時代前期の諸磯c式。2は深鉢底部破片。3は注口土器の注口部分で縄文が施文される。織織を含み縄文時代前期。15は櫛状工具による沈線列で縄文時代中期後半。

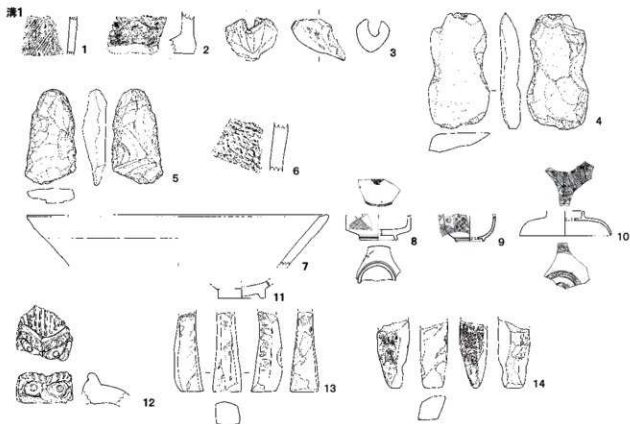
その他の遺物は第38表を参照。



第77図 本村遺跡第117地点溝全体図 (1/200) 土層図 (1/100)



第78図 本村遺跡第117地点ピット・土坑・風倒木痕 (1/60) 棚 (1/30)



第79図 本村遺跡第117地点出土遺物（1/4）

第38表 本村遺跡第117地点出土遺物観察表

(単位:cm)

遺構	No.	種類・器種	口径・長	底径・幅	器高・厚	技法/文様/その他	推定産地	推定年代	残存・備考
溝1	4	石器・打製石斧	12.1	6.4	1.9	196g	ホルンフェルス	縄文時代	完形
溝1	5	石器・打製石斧	9.8	5.2	1.5	139g	ホルンフェルス	縄文時代	完形
溝1	6	土器・須恵器・甕				外面叩き目	在地	古代	胴部破片
溝1	7	瓦質土器・鉢	(32.0)			縦横み成形、外面指頭圧痕、内面横溝で/砂礫粒(片岩粒等)含む。	在地	15世紀	口縁部破片。
溝1	8	磁器・碗・筒茶碗			(4.0)	ロクロ成形/染付。見込み圓線とコンニャク印判五弁花。外面菊花文。	肥前	1760～1810年代	底部破片。
溝1	9	磁器・碗・小碗			(3.0)	ロクロ成形/染付。外面菊花文。	肥前	1820～1860年代	底部破片。
溝1	10	磁器・碗蓋・丸筒蓋	(9.8)	(4.0)	2.4	ロクロ成形/染付。見込み環状松竹梅文。口縁内面雷文。外面笹文。	肥前	1820～1860年代	1/4以下残存
溝1	11	陶器・碗			5.2	ロクロ成形/鉄軸	瀬戸・美濃		底部破片
溝1	12	瓦・瓦瓦							
溝1	13	石製品・砥石	[8.4]	3.2	2.9	表裏側4面砥面。中央括れる。端部欠。	瀬灰岩		完形
溝1	14	石製品・砥石	[6.7]	2.9	3.4	表裏2面砥面。腰陥状に端部が磨り減る。側面に膝目状タガボ直。端部欠。	瀬灰岩		完形
溝2	16	陶器・播鉢				紐轆ロクロ成形	丹波	17世紀後半	口縁破片
遺構外	17	土器・須恵器・坏				ロクロ成形/鉄軸		9世紀	口縁部破片。
遺構外	18	土器・埴器				紐轆り成形。外面口縁部横溝で、内耳粘土紐を貼付け。	在地	近世	口縁部破片。

III 本村遺跡第118地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2006年5月17日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲外であったが、遺跡東側の隣接地であったため申請者と協議の結果、遺跡の範囲を確認するために試掘調査を実施した。

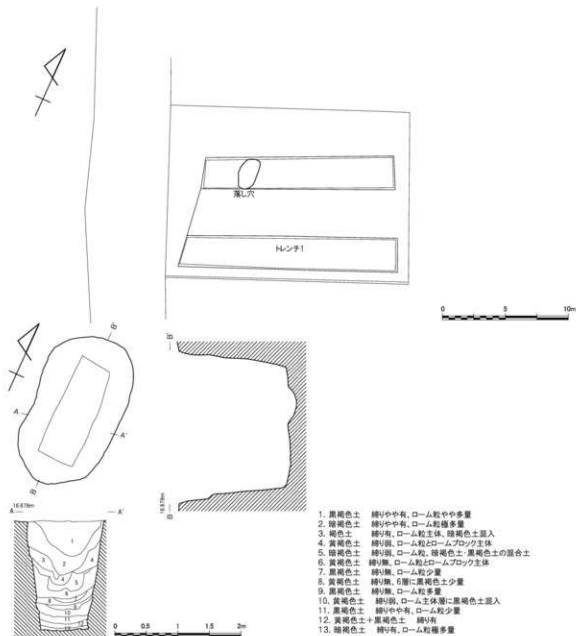
試掘調査は2006年5月24日に行なった。幅約2mのトレンチを2本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行ったところ、暗褐色土ブランを検出した。遺構の性格を確認するためさらに表土除去し確認調査したところ、時期不明の土坑であった。確認面まで30cmしかなく基礎工事による掘削が30cm以上に

及ぶので、申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、本調査を実施することになった。あわせて遺跡範囲を拡大するための変更増補を行った。

本調査は2006年5月25日に行った。検出した落とし穴を調査し、写真撮影・測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

【落とし穴】調査区北西に落とし穴を1基検出した。長軸は南北方向を向く。平面形は上端が楕円形、下端が長方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がる。上端250×145cm、下端163×62cm、深さ191cm。覆土は締まりのないローム粒、出土遺物はない。比較的新しい落とし穴と思われる。



第80図 本村遺跡第118地点遺構配置図 (1/300) 落とし穴 (1/60)

第23章 大井戸上遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

大井戸上遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約1.4 km、砂川堀の右岸で標高26～28mの台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。東台遺跡同様砂川堀との比高差は約7～8mで急崖をなし、左岸は緩やかな傾斜を成す。遺跡の範囲は東西200m、南北100m、遺跡面積約25,000㎡である。

周辺の遺跡は、砂川堀の対岸に大井氏館跡遺跡、同一崖線上の上流に西台遺跡、下流に東台遺跡と続く。

本遺跡は1989年に初調査以来、2008年2月現在までに5ヶ所で試掘調査が行なわれた。第1、2地点の調査では旧石器時代の礫群と石器群を検出した。西台遺跡から東台遺跡まで崖線上に連続した旧石器時代の遺跡が存在していることになる。また、第2・3地点では崖線に沿って時期不明の溝跡を検出している。

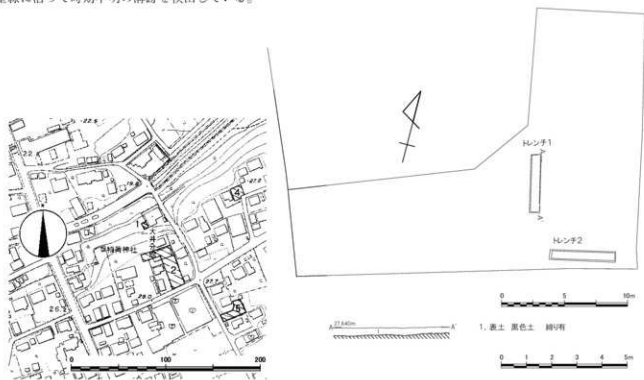
II 大井戸上遺跡第5地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2006年7月4日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南端に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年7月10日に行った。幅約1mのトレンチを2本設定し、人力により表土除去と表面精査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかったことから、慎重工事の措置をとった。地山ローム面までの深さは約40cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。

写真撮影・遺構測量等記録保存を行ったうえ埋め戻して調査を終了した。



第81図 大井戸上遺跡の地形と調査区 (1/4,000)大井戸上遺跡第5地点調査区域図 (1/300) 土層図 (1/150)

第24章 東台遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東台遺跡は東武東上線ふじみの駅の南約1km、砂川堀右岸の台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。標高は24~26mで砂川堀との比高差は約5mで急崖をなし、左岸が緩やかな傾斜を成すのとは対照的である。

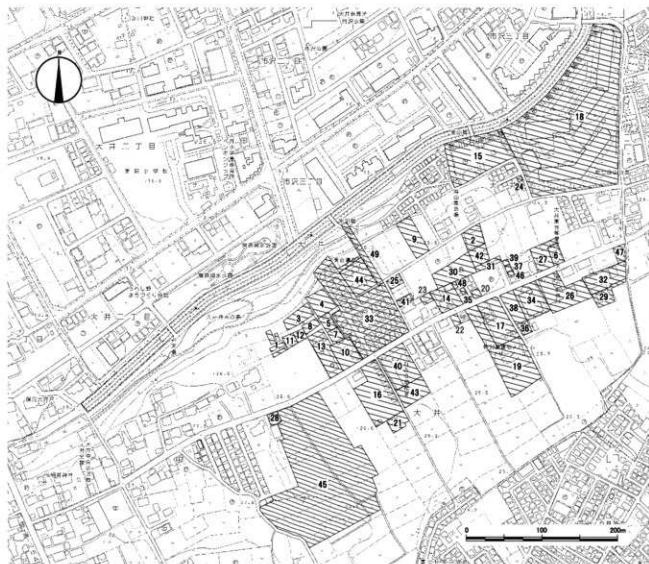
遺跡内には砂川堀に向かって小さな埋没谷が数本確認されている。遺跡の範囲は東西700m、南北250m、遺跡面積約170,000㎡、市内で最大規模の遺跡であり、約17%の30,000㎡を調査している。

旧石器時代の調査では、第18地点の調査で埋没谷に沿った崖沿いにⅥ・Ⅴ層~Ⅳ層下部のナイフ型石器を伴う礫群等が分布する。

縄文時代の調査では早期1軒、後期6軒、中期144軒、不明20軒の住居跡等多数の遺構と遺物が確認されている(2008年2月現在)。特に中期の住居跡は環状に配置しており武蔵野台地縁辺部における拠点集落の一つである。

奈良・平安時代には遺跡の北東部の第15・18地点で八世紀後半の製鉄炉や炭焼き窯など、県内でも有数の規模と古さを誇る製鉄関連遺跡を検出している。

周辺の遺跡は、砂川堀右岸の西約50mに大井戸遺跡、西約300mに旧石器時代の西台遺跡が位置する。また砂川堀を挟んだ左岸に旧石器時代~近世の本村遺跡が位置する。今後旧石器時代では西台遺跡・本村遺跡との関係が、奈良・平安時代から中世にかけては本村遺跡との関係が目目される。



第82図 東台遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第39表 東台遺跡調査一覧表

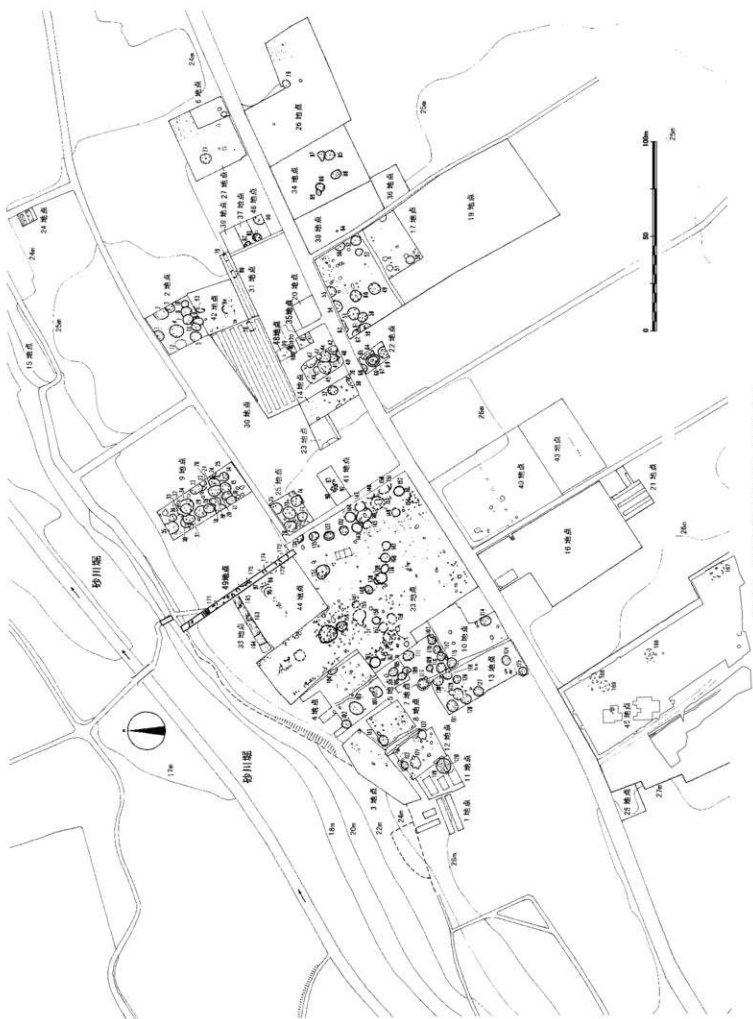
地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大井東台	1981.		町史編纂事業	遺構無し、縄文中期土器	
2	大井東台640-7	1981.12.14~ 1982.2.13	667	宅地造成	縄文中期住居12, 旧石器時代石器	東部遺跡群Ⅱ
3	大井東台672	1982.5.19~6.15	666	宅地造成	9号穴1, 土坑2, 柱穴群	東部遺跡群Ⅱ
4	大井東台671	1982.6.17~11.18	587	農地転用	縄文中期住居3, 後期住居1, 旧石器ユニット, 集石4, 土坑14, 溝	東部遺跡群Ⅱ
5	大井東台	1983.7.25~8.9	195	町史編纂事業	縄文中期住居1, 土坑1	東台遺跡Ⅱ
6	大井東台	1984.1.9~1.12		宅地造成	縄文中期住居1	
7	大井東台670-2	1984.5.15~6.13		共同住宅	縄文中期住居4, 後期住居1	
8	大井東台672	1984.8.18~9.21	345	町史編纂事業	縄文中期住居1, 9号穴2, 土坑14	東台遺跡Ⅱ
9	大井東台	1984.10.25~ 1985.2.15	1,000	駐車場造成	縄文中期住居22, 後期住居1, 9号穴, ビット群, 旧石器群	大井町史資料1
10	大井東台670-1	1985.10.1~11.25	896	住宅建設	縄文中期住居5, 土坑5	東部遺跡群Ⅱ
11	大井東台673	1985.1.14~3.20	660	宅地造成	縄文中期住居2, 集石土坑3, 土坑1, ビット	東部遺跡群Ⅱ
12	大井東台673	1987.5.6~6.26	330	転地返し	縄文早期住居1, 土坑18, 平安時代住居2, 溝1	東部遺跡群Ⅱ
13	大井東台670-6	1988.1.14~2.27	971	倉庫建設	縄文中期住居9, 集石1, 土坑9, ビット20	東部遺跡群Ⅱ
14	大井東台649-16 他	1988.1.27~2.24	735	住宅建設	縄文中期住居12, 屋外埋戻1, 集石土坑1, 土坑8, ビット38	東部遺跡群Ⅱ
15	大井市0577-1 他	(1989.10.17~11.10 1989.11.17~1990.8.1)	700	住宅建設	溝し穴1, 木炭室1, 粘土層探検2, 奈良・平安土器	東部遺跡群Ⅱ
16	大井713-4-5	(1990.8.1~8.4)	3,048	資料置場設置	縄文中期住居1, 土坑1	東部遺跡群Ⅱ X1
17	大井621-1	(1990.9.5~9.12) 1990.10.9~12.27	1,470	診療所建設	縄文中期住居8, 土坑30, ビット94, 燧石	東部遺跡群Ⅱ X1
18	大井629-1, 588	(1991.3.11~5.20) 1992.2.24~1994.7.5	20,000	共同住宅	旧石器燧石, 石器集中7, 溝し穴1, 壱形竪穴9, 木炭室9, 探検坑4, 土坑3, 溝, 燧石, 遺跡跡, 平安土器	東台製鉄遺跡
19	大井621	(1992.5.31~6.7)	4,489	特養新設	縄文中期住居8	町内遺跡群Ⅰ
20	大井649-27	1992.1.30	5	個人住宅	縄文中期住居1	町内遺跡群Ⅱ
21	大井713-11-12	1992.3.7~3.11	290	個人住宅	遺構無し, 縄文土器片	町内遺跡群Ⅱ
22	大井651-6	(1994.5.10~5.11) 1994.5.30~7.30	146	店舗建設	縄文中期住居5, 土坑1	調査報告書13集
23	大井649-12-13	(1995.6.23~6.27)	285	個人住宅	縄文中期住居2	町内遺跡群Ⅱ
24	大井634-20	(1995.7.6)	58	個人住宅	縄文時代集石, 土坑	町内遺跡群Ⅱ
25	大井648-13-14	1995.10.22~12.16	296	個人住宅	縄文中期住居5, 後期住居1, 袋状土坑1, 土坑10, ビット6	町内遺跡群Ⅱ
26	大井東台601-1-4-5	(1996.11.6~11.18) 1997.1.14~3.18	2,248	共同住宅	縄文中期住居1, 土坑3, 溝し穴1, ビット24	調査報告書13集
27	大井600-1	(1997.2.19) 1997.2.19~3.14	965	個人住宅	縄文中期住居1, 9号穴1, 土坑1, 溝し穴1, ビット44	町内遺跡群Ⅱ
28	大井東台710-4	(1997.3.17~3.19)	231	個人住宅	遺構無し, 縄文土器片	町内遺跡群Ⅱ
29	大井東台606-3	(1998.2.27~3.3) 1998.3.4~3.5	500	個人住宅	縄文早期9号穴, ビット2	町内遺跡群Ⅱ
30	大井640-1	(1998.11.4~11.12)	1,330	駐車場	縄文中期住居1, 屋外9号穴, ビット	町内遺跡群Ⅱ
31	大井630-3, 640-8	(1999.5.7~5.21)	186	道路整備	縄文中期住居2	町内遺跡群Ⅱ
32	大井603-1	(2000.8.4~8.9)	92	製茶工場	ビット3	町内遺跡群Ⅱ
33	大井662-1	(2000.8.4~8.8) 2000.8.10~2001.1.25	7,076	分譲住宅	石器群4, 燧石4, 縄文中期住居30, 後期住居4, 掘立柱建跡跡1, 9号穴14, 集石土坑4, 他	町内遺跡群Ⅱ
34	大井東台624-2	(2002.3.12~3.25) 2002.3.26~5.8	1,414	共同住宅	縄文中期住居5, 土坑11, ビット16	町内遺跡群Ⅱ X1
35	大井東台649-31	(2001.9.6~9.8)	48	個人住宅	縄文中期住居1	町内遺跡群Ⅱ X1
36	大井東台614	(2001.10.15~11.2)	272	倉庫建設	ビット5, 土器片	町内遺跡群Ⅱ X1
37	大井東台626-12	2001.10.12~11.5	100	個人住宅	縄文中期住居2, ビット1	町内遺跡群Ⅱ X1
38	大井東台614-3	(2002.1.28~2.15)	787	駐車場	縄文中期住居1, 壱伏遺構1, 集石土坑2, 土坑2, ビット2	町内遺跡群Ⅱ X1
39	大井626-8	(2002.6.3~6.20)	100	個人住宅	ビット3, 縄文土器片, 石屑	町内遺跡群Ⅱ X2
40	大井661	(2003.10.6~11.4)	1,875	幼稚園	土坑6, ビット10, 燧石	町内遺跡群Ⅱ X2
41	大井東台648-4	(2004.5.11~5.14)	182	個人住宅	縄文中期住居3, 集石1, 土坑1, 屋外ビット1	町内遺跡群Ⅱ X2
42	大井640-4	(2004.9.7~9.17)	515	教会建築	縄文中期住居2, 溝し穴1, 土坑3, ビット20	町内遺跡群Ⅱ X2
43	大井東台661-6	(2005.1.13)	964	駐車場	ビット4	町内遺跡群Ⅱ X2
44	大井東台664-15	2005.12.8~12.28	200	個人住宅	縄文中期住居1, 後期住居2, 土坑5, ビット9	市内遺跡群2
45	大井宇東台710-1, 711-1, 717-1, 2	(2006.5.31~9.11) 2006.9.8~2007.3.7	7,971	小学校建設	縄文中期住居1, 後期住居2, 土坑5, ビット10	市内遺跡群3
46	大井宇東台626-11	(2006.9.4~6) 2006.9.15~28	100	個人住宅	縄文中期住居1, 集石1, 土坑1	市内遺跡群3
47	大井宇東台602番4, 602番5	(2006.9.19~20)	320	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡群3
48	大井宇東台649-21	(2007.1.16~20)	60	個人住宅	縄文中期住居3	市内遺跡群3

第40表 東台遺跡住居跡一覧表

(単位:cm)

調査番号	平面形状 (1)は規定	規模	壁 敷	柱 敷	埋 設	特 徴	考 考	時期	文化
1	80% 円形	100×70	○	○	○	有	管轄系多い	北土層	東屋
2	120% 円形	400	○	○	○	有	床まで埋す	北土層	東屋
3	80% 楕円方形	17×300	○	○	○	有	北西向き	北土層	東屋
4	120% 楕円方形	300×750	○	○	○	有	○	北土層	東屋
5	120% 円形	460×470	○	○	○	有	床まで埋す	北土層	東屋
6	120% 円形	420×430	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
7	120% 円形	330×325×25	○	○	○	有	管轄系多い	北土層	東屋
8	120% 楕円方形	300×190×20	○	○	○	有	7号に埋される	北土層	東屋
9	50% 円形	40	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
10	120% 円形	310×400	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
11	120% 円形	410×420	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
12	20% 円形		○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
13	120% 円形	300×220	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
14	120% 円形	420×428	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
15	120% 円形	314×328	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
16	120% 円形	325×424	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
17	120% 円形	428×422	○	○	○	有	管轄系多い	北土層	東屋
18	90% 円形	323	○	○	○	有	19号に埋る	北土層	東屋
19	120% 楕円台	317	○	○	○	有	管轄系多い	北土層	東屋
20	120% 長円形	608×365	○	○	○	有	21号に埋る	北土層	東屋
21	120% 楕円方形	482×462	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
22	50% 円形	40	○	○	○	有	23号に埋る	北土層	東屋
23	80% 長円形	622×409	○	○	○	有	管轄系多い	北土層	東屋
24	120% 長円形	東に2段溝	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
25	120% 長円形	西側埋す	○	○	○	有	24号に埋る	北土層	東屋
26									
27	120% 長円形	部分埋す	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
28	120% 長円形	474×430	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
29	120% 長円形	40	○	○	○	有	29号に埋る	北土層	東屋
30	120% 長円形	40	○	○	○	有	31号に埋る	北土層	東屋
31	120% 長円形	618×472	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
32	120% 長円形	323×325	○	○	○	有	34号に埋る	北土層	東屋
33	120% 楕円形	7×320	○	○	○	有	32号に埋る	北土層	東屋
34	120% 楕円形	230×458	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
35	80% 長円形	310×340	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
36	20% 円形	西平らな面	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
37	120% 長円形	330×430×15	○	○	○	有	人居住跡	北土層	東屋
38	40% 楕円方形	西平らな面	○	○	○	有	29号に埋る	北土層	東屋
39	15% 楕円方形	大層分埋す	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
40	20% 楕円方形	400×200×20	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
41	40% 楕円形	480×380×20	○	○	○	有	41号に埋る	北土層	東屋
42	45% 不明	高部・東側埋す	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
43	40% 長円形	400×600×40	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
44	60% 楕円方形	500×500×20	○	○	○	有	41-47号に埋る	北土層	東屋
45	40% 長円形	280×600×25	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
46	40% 楕円形	400×200×10	○	○	○	有	41号に埋る	北土層	東屋
47	20% 円形	300×300×25	○	○	○	有	41号に埋る	北土層	東屋
48	20% 楕円方形	東大層分埋す	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
49	20% 楕円方形	500×300×30	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
50	120% 長円形	420×380×30	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
51	120% 長円形	330×310×30	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
52	120% 円形	495×480×50	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
53	120% 円形	340×310×30	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
54	40% 円形	7×400×600	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
55	20% 円形	7×400×600	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
56	60% 円形	1680×2400	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
57	120% 円形	600×600	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
58	120% 楕円形	320×430	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
59	30% 円形	360×300	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
60	120% 円形	300×310	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
61	90% 円形	17×20	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
62	50% 円形	17×20	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
63	50% 円形	17×20	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
64	50% 円形	17×20	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
65	50% 円形	17×20	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
66	30% 楕円形	433×408×22	○	○	○	有	55-60号に埋る	北土層	東屋
67	30% 楕円形	362×408×22	○	○	○	有	60号に埋る	北土層	東屋
68	120% 楕円形	666×560×48	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
69	120% 楕円方形	462×380×12	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
70	120% 楕円形	480×408×42	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
71	20% 楕円形	1680×408×40	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
72	30% 楕円形	320×510×30	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
73	120% 楕円形	440×410×16	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
74	120% 楕円形	480×410	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
75	120% 楕円形	408×560×30	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
76	120% 楕円形	412×514×40	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
77	20% 楕円形	100×7	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
78	120% 楕円形	391×366	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
79	120% 楕円方形	395×480×24	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
80	40% 不明	不明	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
81	40% 不明	不明	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
82	20% 不明	不明	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
83	40% 不明	不明	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
84	85% 円形	1485×7	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
85	30% 楕円形	420×310×35	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
86	30% 楕円形	1980×190×30	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
87	120% 楕円形	330×420	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
88	120% 楕円形	364×402	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
89	120% 楕円形	415×332	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
90	120% 不明	1680×300	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
91	120% 不明	330×310	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋
92	30% 不明	1780×60×10	○	○	○	有	埋す	北土層	東屋

東=東部遺跡群、西=西資料群、溝=遺跡調査会報告、町=町内遺跡群、市=市内遺跡群



第83図 東台遺跡構分布図 (1/2,000)

Ⅱ 東台遺跡第45地点

(1) 調査の概要

調査は小学校建設に伴うもので、ふじみ野市長より2006年5月16日付で「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西端に位置しているため、ふじみ野市教育委員会東台小学校建設準備室と協議の結果、遺跡範囲と遺構確認の試掘調査を実施することになった。

試掘調査は2006年5月31日から同年9月1日まで行なった。遺跡範囲内は調査区域内に10×10mの大グリッドを設定し、さらに2m単位の小グリッドに25分割し、人力による表土除去と表面精査をおこなった。また、遺跡範囲外は大グリッドにそって幅約2mのトレンチを18本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。また、遺構を検出なかったグリッドやトレンチについては引き続き旧石器時代の確認調査を行うためローム層を深掘りしていった。その結果、縄文時代の住居跡らしき遺構と縄文土器片、旧石器時代の石器を検出したため、協議の結果本調査を実施することになった。試掘調査の写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、調査を終了した。

本調査は2006年9月8日から翌2007年3月7日まで、ふじみ野市教育委員会が行い、旧石器時代の石器集中3ヶ所、縄文時代の住居跡、土坑を調査した。石器集中からは重さ562gもある大型の黒曜石石核が出土し、平成19年度埼玉県最新出土品点への出品および遺跡発掘調査報告で発表し、注目される。

なお、調査報告は小学校建設に伴う発掘調査が平成20年度まで継続するため、すべての調査終了後の平成21年度に刊行する予定である。

Ⅲ 東台遺跡第46地点

(1) 調査の概要

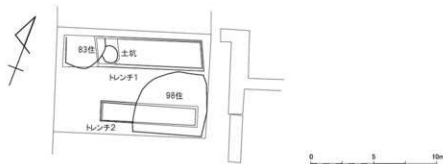
調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2006年7月14日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地し隣地では縄文時代の住居跡を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年9月4日から同年9月7日まで行なった。幅約2mのトレンチを2本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行ったところ、住居跡らしき暗褐色土プランを検出した。遺構の範囲を確認するためさらに表土除去し精査したところ、住居跡2軒のほか、土坑等であった。確認面まで30～40cmを測るが、開発による掘削が30cm以上に及ぶ。そこで申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

写真撮影・全測図等記録保存を行い、試掘調査を終了した。

本調査は2006年9月15日から同年9月28日まで、ふじみ野市教育委員会が行い、縄文時代中期の住居跡2軒、土坑、集石を調査した。

(第Ⅱ部第8章東台遺跡第46地点の調査参照)



第85図 東台遺跡第46地点遺構配置図(1/300)

Ⅳ 東台遺跡第47地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2006年8月11日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡東端に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2006年9月19日から同年9月20日まで行った。2m幅のトレンチを3カ所設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査を行なった。調査の結果、全域で深く耕作されロームを含む黒褐色土が厚く堆積しており、遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事の措置とした。確認面まで70～120cmを測る。

写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

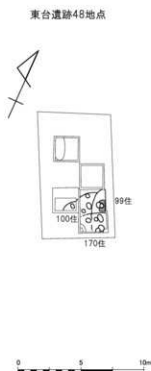
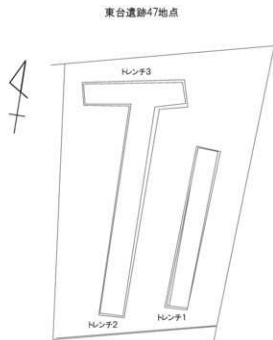
Ⅴ 東台遺跡第48地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2007年1月16日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地し、隣接地で縄文時代の住居跡を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年1月16日から同年1月26日まで行った。2×2mのグリッドを4カ所設定し、人力で表土除去し表面精査を行なった結果、暗褐色土プランを検出した。遺構の性格を確認するためさらに表土除去し精査したところ、住居跡、土坑等であった。確認面まで70～80cmを測り、30cmの保護層が確保できるため工事立ち会いの措置をとった。

検出した遺構の写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。



第86図 東台遺跡第47地点・48地点遺構配置図 (1/300)

(2) 遺構と遺物

①99号住居跡

【位置】調査区の南東隅に位置する。東台遺跡縄文集落内では東側環状集落の内側にあたり、40～48号住居跡等住居密集部分と連続する。

【形状】住居跡の北西部分を検出した。平面形態は円形か楕円形を呈する。確認面から床面の深さは18cm、現況面からは100cmを測る。170号住居跡を埋めて床面とし、100号住居跡により埋められる。

壁は緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

第41表 東台遺跡99号住居跡ビット一覧表 (単位cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	54×44	15×10	39	
P4	円形	36×32	12×8	60	
P6	円形	36×30	16×16	32	
P7	円形	25×32	10×7	26	

【時期】加曾利EⅡ式期。

②100号住居跡

【位置】調査区の南東隅に位置する。東台遺跡縄文集落内では東側環状集落の内側にあたり、40～48号住居跡等住居密集部分と連続する。

【形状】住居跡の北側部分を検出した。平面形態は円形か楕円形を呈する。確認面から床面の深さは12cm、現況面からは90cmを測る。99号・170号住居跡を埋めて床面とし、最も新しい。

壁は緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

第42表 東台遺跡100号住居跡ビット一覧表 (単位cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P5	円形	28×26	10×5	24	旧99住P5
P9	円形	30×28	16×16	47	
P10	長方形	38×24	10×6	41	
P11	円形	48×40	7×6	34	
P12	円形	34×30	20×16	52	

【周溝】99号住居跡を埋めて床面とした部分で検出した。幅20cm、深さ5cm。

【時期】加曾利EⅡ式期。

③170号住居跡

【位置】調査区の南東隅に位置する。東台遺跡縄文集落内では東側環状集落の内側にあたり、40～48号住居跡等住居密集部分と連続する。

【形状】住居跡の北側部分を検出した。平面形態は円形か楕円形を呈する。確認面から床面の深さは18cm、

現況面からは100cmを測る。99号・100号住居跡によって埋められ、最も古い。

壁は緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

第43表 東台遺跡170号住居跡ビット一覧表 (単位cm)

	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P2	円形	32×30	21×16	39	
P3	円形	45×42	16×12	78	
P8	円形	32×30	17×16	24	
P13	—	(56)×(44)	12×6	27	

【時期】不明。

④99号住居跡出土遺物 (第88図上1～16)

1と2は深鉢の口縁部文線帯部分で区画文・渦巻文を基調とし、地文縄文であり加曾利EⅡ式である。3は沈線2本をめぐらしたのみで、地文縄文を角丸長方形に沈線で区画し、その周囲を磨消す。加曾利EⅢ式であろう。4と5は口縁下に2列の列点文をめぐらす地文縄文のもので加曾利EⅡ式といえる。6と7は半段管状工具による沈線の地文のみで上記と併行する非在地系の土器。8は2の退化形で、9と10は地文縄文に磨消懸垂文をもつ加曾利EⅡ式の典型。11は地文縄文のみもの。12は沈線と沈線列のみ。13と14は沈線列の地文に貼付隆帯に刻目を加える。15と16は無文口縁と底部で11～15も加曾利EⅡ式と併行期。

⑤100号住居跡出土遺物 (第88図中1～3)

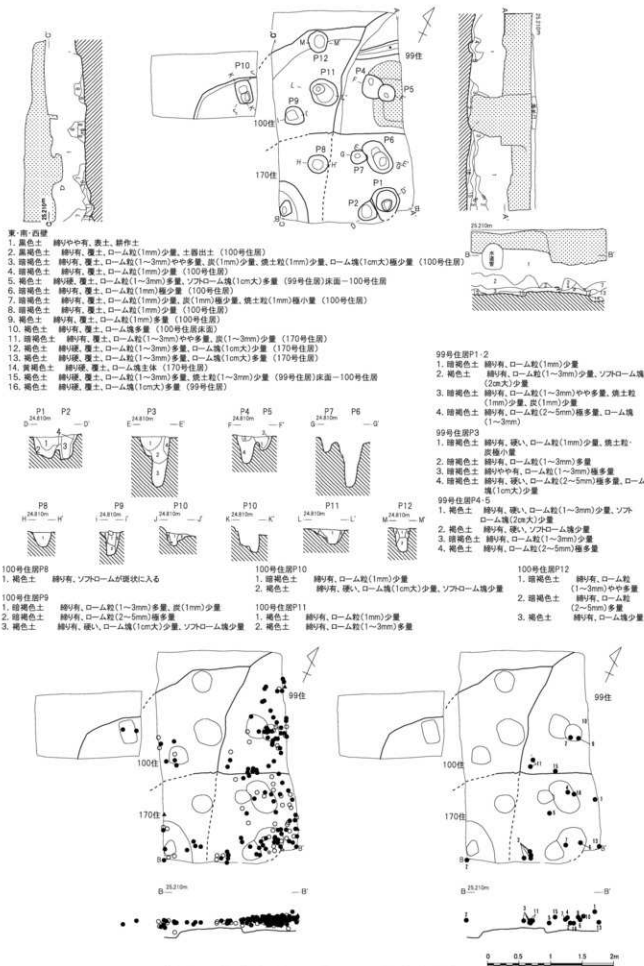
1～3は文様・胎土・焼成から同一個体としてよいもので、ラフなRL縄文を地文とし、2本の沈線間を磨消した直下懸垂文をもつ。加曾利EⅡ式新相。

⑥170号住居跡出土遺物 (第88図中右)

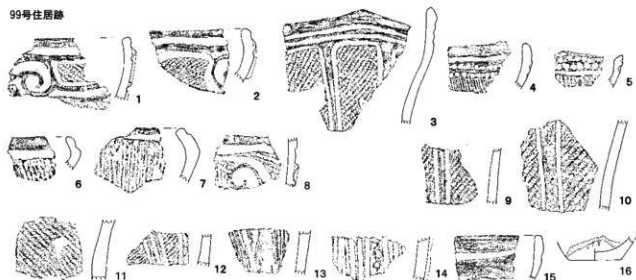
1は無文の深鉢片。加曾利EⅡ式の可能性が高い。

⑦遺構外の出土遺物 (第88図下1～12)

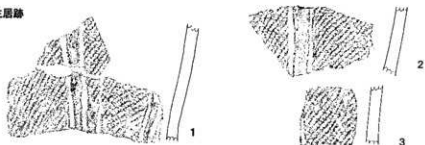
1は無文、2は列点文をめぐらす地文縄文の類。3は地文縄文に沈線で蛇行懸垂文を入れる。4～8は地文縄文に磨消懸垂文を入れる。9は地文縄文のみの部分の副断片。10は沈線列を地文とし、沈線の懸垂文をもつ。11は地文条線のみの副断片。12は無文の浅鉢で、表面のヘラ磨きが著しい。1～11は加曾利EⅡ式であり、12もこの期のものであろう。



99号住居跡



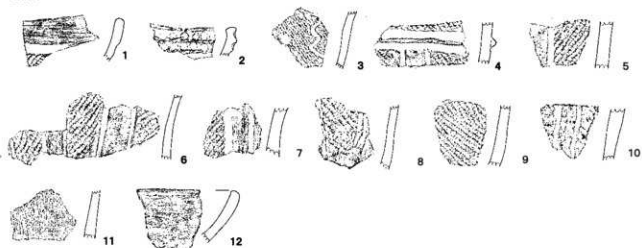
100号住居跡



170号住居跡



遺構外



第88図 東台遺跡99号・100号・170号住居跡・遺構外出土遺物 (1/4)

第Ⅱ部 民間開発に伴う本調査

第1章 松山遺跡第40地点の本調査

I 本調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、2007年2月2日から8日まで行なった試掘調査に基づき申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

本調査は2007年2月21日から開始し、遺構を確認した範囲の表土を重機により除去し、人力による表面精査で遺構範囲を確認した。遺構調査は人力で覆土を除去しつつ出土遺物を残し、土層図・遺構平面図・調査区域図の平板測量と写真撮影を行い、同年3月9日調査を終了した。検出した遺構は奈良時代の住居跡1軒、土坑13基、竪穴状遺構1基、時期不明の落し穴1基、ピット1基、溝1条である。

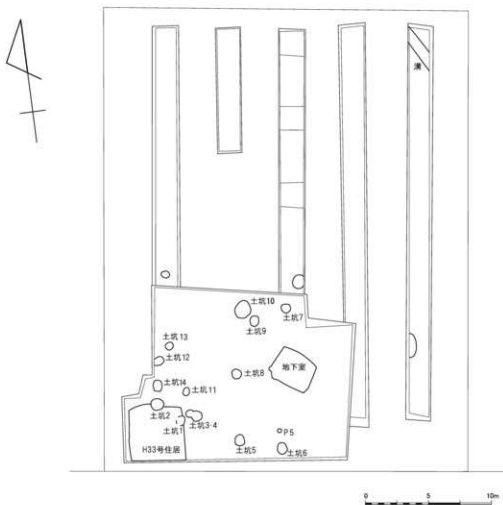
II 遺構と遺物

(1) H33号住居跡

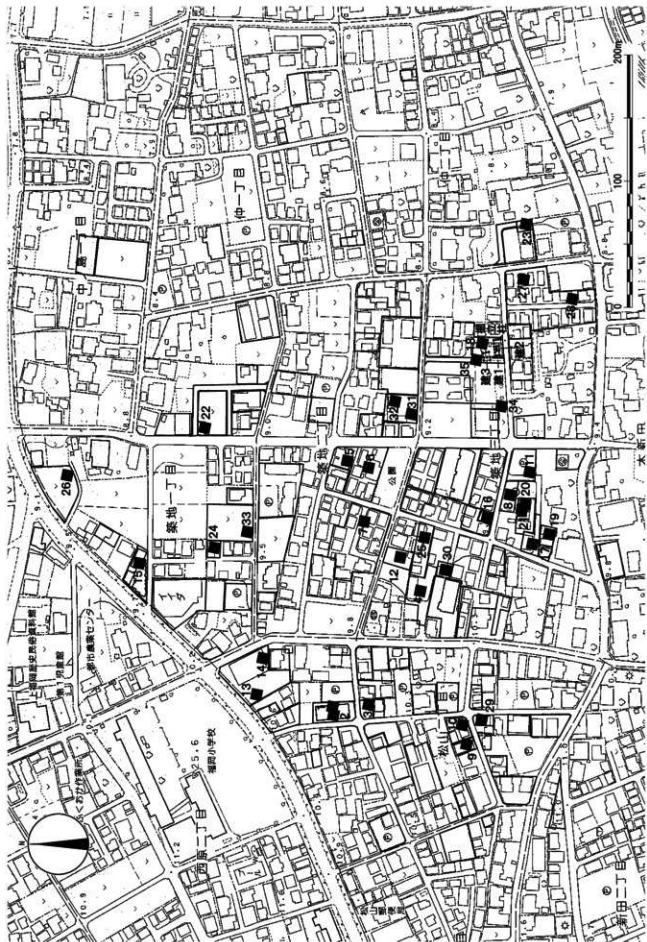
【位置】調査区の南西端に位置する。遺跡全体の分布では北側に位置する。土坑1と2と重複し、土坑より古い。

【形状】主軸方位はN-5°-E、北側に竈を備える。平面形態は方形、規模は主軸方位の南北が竈を含めて4.95m、竪穴部分で4.55m、東西4.20m、確認面からの深さ0.38mである。

【竈】住居の北側に付く。北西部分は土坑2により壊される。竈の裾部は粘土を貼り付けている。竈奥壁から右側裾部にかけて焼けて赤化する。裾部を含めた竈の規模は幅1.54m、奥行き0.98m、残高0.22mである。

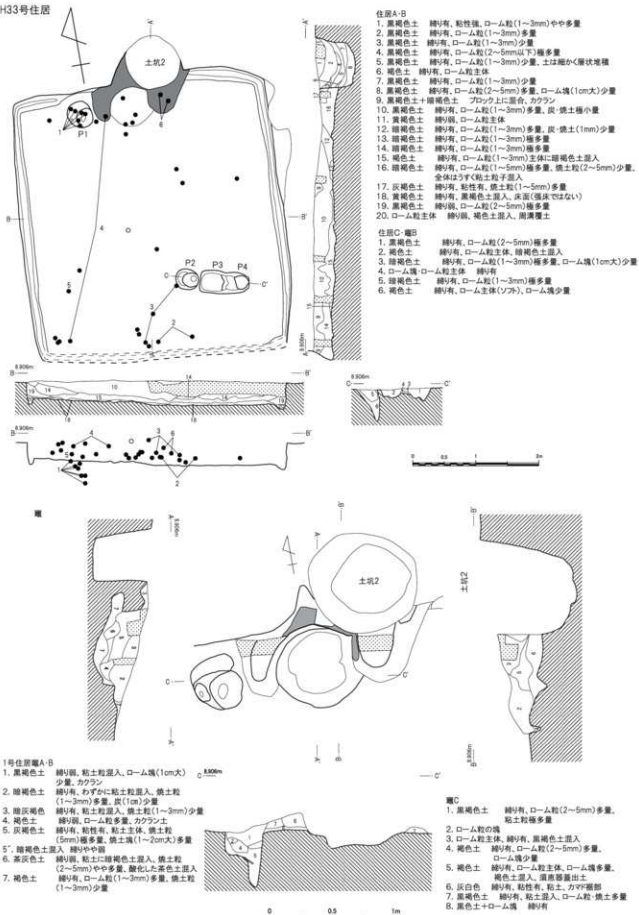


第89図 松山遺跡第40地点遺構配置図 (1/300)



第90図 松山遺跡遺構分布図 (1/3,000)

H33号住居



第91図 松山道跡第40地点 H33号住居跡・遺物出土状況(1/60) 電(1/30)

【土坑・ピット】竈左側に0.43×0.37×深さ0.49mのピット(P1)が有り、須恵器破片が出土した。貯蔵穴の可能性はある。

【周溝】南側は道路が崩れるおそれがあるため全て掘っていないが、主軸部分と隅の部分では周溝と壁を確認しており、竈の周囲を除き、住居の壁際を全周すると思われる。周溝幅12~20cm、深さ6~12cm前後である。

【床・壁】床面は全体に硬化面がなく平坦である。壁は垂直に立ち上がる。

【時期】出土遺物から8世紀後半。

(2) 溝

調査区北東隅に検出した。断面形態は「L」字形を呈し、底面は凸凹する。検出した溝の長さは3.4m、上端幅は0.75m、下端幅は0.45m、確認面からの深さ0.3mである。遺物は検出しなかった。

(3) 土坑・ピット

土坑14基、ピット1基を検出した。土坑は径1m前後の円形が多く、土坑4・8・7や土坑2・3・5等は直線配列も認められるが、掘建柱建物跡は確認できない。土坑3・8は深い、礫層にまでは達しておらず井戸の可能性は低い。

土坑10は長楕円形を呈し落し穴の可能性はある。

(4) 地下室

調査区の中央南側に位置する。主軸方位はN-42°

—W、平面形態は隅丸長方形、規模は3.45×2.80m、確認面からの深さ0.54m。壁はオーバーハンクして立ち上がる。中央部分から西壁にかけてピットを検出した。出土遺物はなく時期不明であるが、覆土から比較的新しい採土坑の可能性もある。

(5) 出土遺物

H33号住居跡より70点余りの須恵器片、土師器片が出土し、6点を図示した。7は土坑8出土の常滑素焼破片。

第46表 松山遺跡第40地点遺構一覧表 (単位cm)

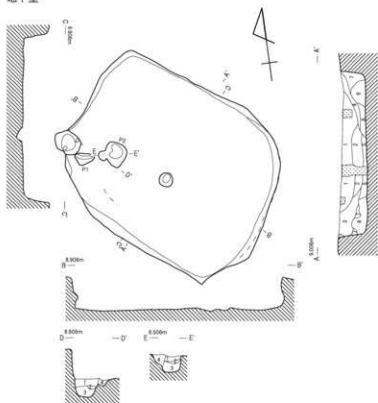
	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝1		75~	45~	30	
土坑1	円形	82×82	76×70	26	
土坑2	円形	86×80	60×54	71	須恵器・土師器出土
土坑3	円形	84×80	52×47	128	
土坑4	円形	90×90	81×76	23	
土坑5	円形	96×96	32×21	31	
土坑6	円形	104×97	13×12	44	土師器出土
土坑7	円形	80×77	68×66	9	
土坑8	円形	104×101	44×42	180	常滑素焼出土
土坑9	円形	94×91	68×66	15	
土坑10	楕円形	168×125	71×34	112	落し穴?
土坑11	楕円形	72×66	68×58	16	旧P1
土坑12	円形	80×80	78×76	14	旧P2
土坑13	楕円形	77×68	8×8	48	旧P3
土坑14	不整形	94×87	72×65	16	旧P4、瓦質土器出土
P1	円形	34×32	22×20	26	旧P5
地下P1	円形	43×32	26×22	80	
地下P2	円形	33×30	22×22	37	
地下P3	円形	20×20	15×10	6	

第47表 松山遺跡 H33号住居跡出土遺物観察表

(単位cm)

遺構	No.	種別・器種	口径・長	底径・幅	器高・厚	技法/文様/その他	推定生産地	推定年代	残存・備考
H33住	1	土器・須恵器・坏蓋	17.1	経径2.8	3.8	轆轤成形/天井部回転ヘラ削り調整後、足貼り付口/海綿骨針含む	比企地方	8世紀中頃	3/4残存
H33住	2	土器・須恵器・坏	(12.6)	6.6	4.3	轆轤成形/底部周辺回転ヘラ削り調整/海綿骨針含む	比企地方	8世紀後半	1/3残存
H33住	3	土器・須恵器・坏	(13.3)	7.5	3.8	轆轤成形/底部周辺回転ヘラ削り調整/海綿骨針含む	比企地方	8世紀後半	3/4残存
H33住	4	土器・土師器・坏	(12.4)	(8.4)	3.7	口縁部横撫で。体部縦方向のヘラ削り。底部ヘラ削り。/粘土粉質。		8世紀	1/2残存
H33住	5	土器・土師器・甕				口縁部横撫で。体部横方向のヘラ削り。			口縁部破片
H33住	6	土器・土師器・台付き甕		(10.0)		横撫で			脚部破片
土坑8	7	轆轤陶器・甕				紐積み成形/内面横撫で	常滑	中世	体部破片
造構外	8	石器・石鏝	2.0	1.4	0.3	重量0.75g。	黒曜石	縄文時代	定形

地下室



地下室 A

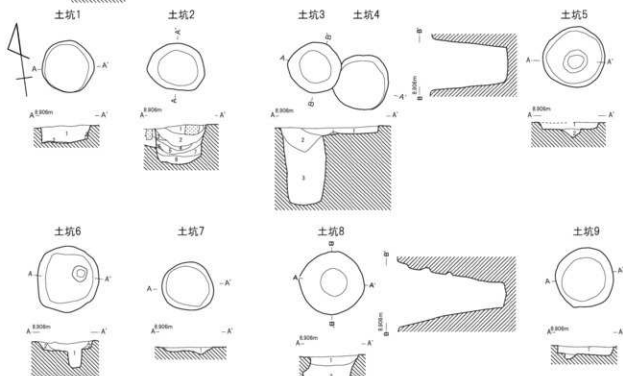
1. 暗褐色土 締り有、ローム粒(5mm以下)やや多量、ローム塊(0.5~1.5cm)少量、色黒め
2. 黒褐色土ベース 締り有、粘性有、ローム塊(1~7cm)多量、黒褐色土塊(0.5~2cm)やや多量、焼土(5mm大)わずか、締り強
3. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム塊(0.5~1.5cm)やや多量、黒褐色土塊(1~3cm)少量、ローム分を多量に含む、色黒明心の
4. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム粒(3mm以下)やや多量、黒褐色土塊(0.5~1.5cm)少量
5. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム粒(5mm以下)やや多量、ローム塊(1~5cm)少量、黒褐色土(1.5cm以下)やや多量、焼土・炭化物(5mm大)少量
6. 黒褐色土 締り有、粘性有、ローム粒・塊(5cm以下)やや多量、焼土(10mm大)・焼土・炭化物(5mm以下)わずか、室下部にわずい炭化物層が見られる
7. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム塊(0.5~1.5cm)多量、黒褐色土塊(0.5~1.5cm)少量、締り強い
8. 暗褐色土ベース 締り有、粘性有、ローム塊(10cm大)主体、ローム粒多量、黒褐色土塊(最大6cm、0.5~1.5cm)少量

地下室 D

1. ローム塊(1cm大)主体、 締りやや有、黒色土混入
2. 黒色土 締り有
3. 黒色土、締り有、ローム塊(1cm大)極多量
4. 黒褐色土 ローム塊

地下室 E

1. 暗褐色土 締り有、ローム粒(5mm)極多量、ローム塊
2. 黒色土 締り有
3. 暗褐色土+ローム 締り有
4. 暗褐色土+ローム 締り弱



土坑1-5-6

1. 褐色土 締り有、ローム粒(1~5mm)多量、ローム塊(1cm大)少量
2. ローム塊主体 締り有、黒褐色土混入

土坑2

1. 黒褐色土 締り有、粘性強、ローム粒(1~3mm)やや多量
2. 黒褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)多量
3. 黒褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)少量
4. 黒褐色土 締り有、ローム粒(2~5mm以下)極多量
5. 黒褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)少量、土は細かく層状堆積
6. 褐色土 締り有、ローム塊主体
7. 黒褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)少量
8. 黒褐色土 締り有、ローム塊(2~5mm)多量、ローム塊(1cm大)少量

土坑3-4

1. 暗褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)多量
2. 暗褐色土 締り有、ローム塊(2~5cm大)多量
3. 黒褐色土+ローム塊(2~5cm大)、締り弱

土坑7

1. 黒褐色土 締り有、ローム粒(5mm)極多量、ローム塊(1cm大)多量

土坑5

1. 暗褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)多量、炭核小量
2. 暗褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)少量、炭・焼土粒極少量
3. 暗褐色土 締り有、ローム粒(2~5mm)極多量、ローム塊(1cm大)少量
4. 黒褐色土+ローム塊 締り有
5. 暗褐色土 締り弱、ローム塊極多量

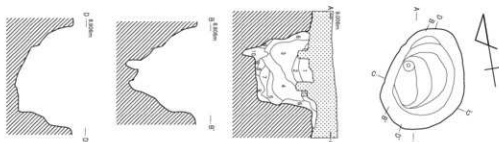
土坑9

1. 黒褐色土 締り有、ローム粒(5mm)やや多量、ローム塊(1cm大)少量



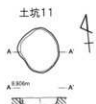
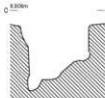
第92図 松山遺跡第40地点地下室・土坑(1/60)

土坑10



土坑10

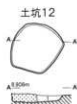
1. 暗褐色土 砂り強、粘性有、ローム粒(1mm以下)少量、シロ状のローム塊(1.5cm以下)少量
2. 黒褐色土 砂り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量
3. 暗褐色土 砂り強、粘性有、ローム粒(最大5mm、2mm以下)少量、炭化物(3mm程度)わずが、色調暗め
4. 黒褐色土 砂り強、粘性有、ローム粒(最大3mm、2mm以下)少量、暗褐色土塊(1~10cm)少量混ざる
5. 暗褐色土 砂り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)わずが、4層に比べ暗褐色土塊をみ状に多量
6. 暗褐色土 砂り強、粘性有、シロ状のローム塊を含み若干斑状を呈す、炭化物(2mm大)わずが、ローム分多量、色調明るめ
7. 暗褐色土 砂り強、粘性有、6層に似るが、より多ローム分を含み炭化物(2mm大)わずが、色調明るめ
8. 暗褐色土 砂り強、粘性有、混入物も、わずがが地山に比べ、色調暗め
9. 明暗褐色ローム土 砂りやや弱、粘性有、暗褐色土を少量含む、粗かなハードローム塊主体で作り出している
10. 暗褐色土ベース 砂り有、粘性有、ローム塊(3cm以下)多量



土坑11

土坑11

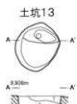
1. 暗褐色土 砂り有、ローム粒(5mm)多量
2. 黒褐色土 砂り有、ローム粒(5mm)やや多量



土坑12

土坑12

1. 黒褐色土 砂り有、ローム粒(1~3mm)少量



土坑13

土坑13

1. 黒褐色土 砂り有ローム粒(1~3mm)少量
2. 褐色土 砂り有、ローム(ノコ)が層状に混入

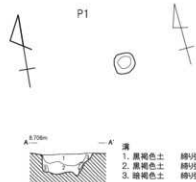
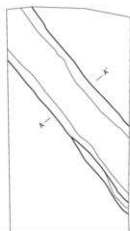


土坑14

土坑14

1. 黒褐色土 砂り有、ローム塊多量
2. 黒褐色土 砂り有、ローム粒(1~3mm)多量

溝

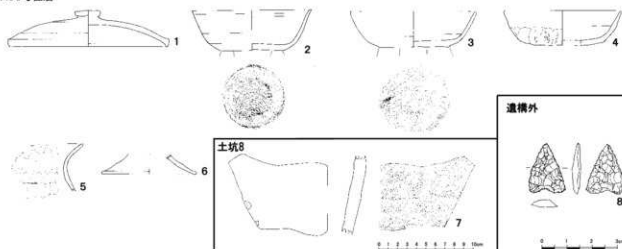


溝

1. 黒褐色土 砂り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少量
2. 黒褐色土 砂り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)やや多量、底部付近にローム塊(8cm以下)多量
3. 暗褐色土 砂り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)多量、壁面部にみられる層様

0 0.5 1 1.5 2m

H33号住居



土坑8

遺構外

第2章 松山遺跡第41地点の本調査

I 本調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、2007年2月7日から9日まで行なった試掘調査に基づき申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

本調査は2007年2月21日から開始し、遺構を確認した範囲の表土を重機により除去し、人力による表面精査で遺構範囲を確認した。遺構調査は人力で覆土を除去しつつ出土遺物を残し、土層図・遺構平面図・調査区域図の平板測量と写真撮影を行い、同年3月5日調査を終了した。検出した遺構は中世の溝3条、土坑7基である。

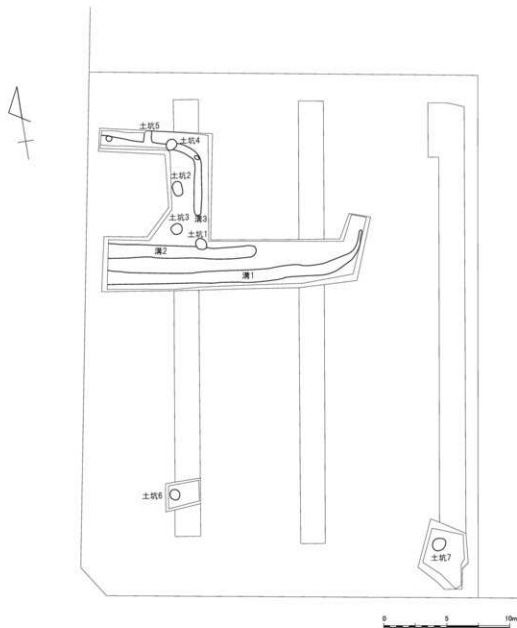
II 遺構と遺物

(1) 溝

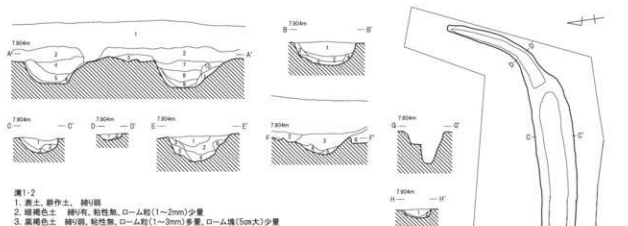
調査区北西部に3条検出した。溝1・2は東西方向、溝3は東西方向から直角に南北方向へ曲がる。溝1と溝2は平行しており、上端幅で0.9~1.3m、溝の中心幅では2.0~2.2mの間隔がある。道路の側溝跡の可能性は高いが、溝1と2に挟まれた間の検出面及び土層を観察したが、硬化面は検出していない。耕作により削平された可能性もある。

3条とも断面形態は「U」字形を呈し、底面は平らである。

溝1は調査区西端から20m東側で北へ曲がり、浅く



第94図 松山遺跡第41地点遺構配置図 (1/300)



溝1-2

1. 表土、耕作土、締り弱
2. 暗褐色土 締り有、粘性無、ローム粒(1~2mm)少量
3. 黄褐色土 締り有、粘性無、ローム粒(1~3mm)多量、ローム塊(5cm大)少量
4. 黄褐色土 締り有、硬い、粘性中やや、ローム粒(1~3mm)中多量
5. 暗褐色土 締り有、粘性無、ローム粒(1~3mm)多量、土の粒子細かい
6. 暗褐色土 締り有、粘性無、ローム粒(1~3mm)極多量、ローム塊(2~3cm大)多量
7. 暗褐色土 締り有、硬い、粘性無、ローム粒(1~3mm)多量
8. 黄褐色土 締り有、粘性無、ローム粒(1~3mm)少量
9. 暗褐色土 締り中やや、粘性無、ローム粒(1~2mm)少量、粒子細かい
10. 暗褐色土 締り有、粘性無、ローム粒(1~3mm)少量、ローム塊(1cm大)少量
11. 暗褐色土 締り有、硬い、粘性中やや、ローム粒(1~3mm)極多量、ローム塊(2~3cm)少量
12. 褐色土 締り有、粘性無、地山

溝1B

1. 黒茶褐色土 締り有、粘性中やや、ローム粒(1~3mm)少量
2. 黄褐色土 締り有、粘性中やや、ローム粒(1~3mm)少量
3. 黄褐色土 締り有、粘性中やや、ローム粒(1~3mm)多量

溝2B

1. 暗褐色土 締り有、粘性無、ローム粒(1~3mm)少量
2. 黄褐色土 締り有、粘性中やや、ローム粒(1~3mm)少量
3. 暗褐色土 締り有、粘性無、ローム粒(1~3mm)極少量、暗褐色土混入
4. 暗褐色土 締り有、粘性無、ローム粒(1~3mm)中多量
5. 暗褐色土 締り有、粘性無、ローム粒(1~3mm)少量
6. 黄褐色土 締り有、粘性有、ローム主体、黒色土少量混入

溝1C

1. 黄褐色土 締り有粘性無、ローム粒(1~3mm)少量
2. 黄褐色土 締り有、粘性無、土の粒子細かいローム粒(1~2mm)極少量
3. 黒茶褐色土 締り有、粘性無、ローム粒(1~3mm)多量、ローム塊(1cm大)少量
4. 黄褐色土 締り有、粘性中やや、ローム粒(1~3mm)多量
5. 黄褐色土 締り有、粘性中やや、ローム粒(1~2mm)極少量

溝1D

1. 黄褐色土 締り有、粘性中やや、ローム粒(1~2mm)極少量
2. 黄褐色土+ローム塊(混合土)

H

1. 黄褐色土 締り有、粘性無、ローム粒(1~3mm)中多量
2. 黄褐色土 締り有、粘性無、ローム粒(1~3mm)多量、ローム塊多量



第95図 松山遺跡第41地点溝1~3 (1/100) 土層図 (1/60)

なつて消滅する。溝の時期は出土遺物から15世紀。

溝2は調査区西端から13.5m東側で立ち上がり消滅する。土坑1と重複し、土坑1より新しい。15世紀。

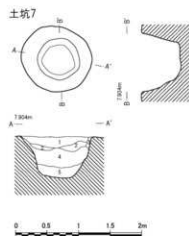
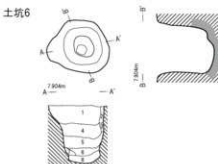
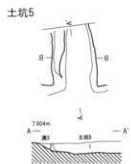
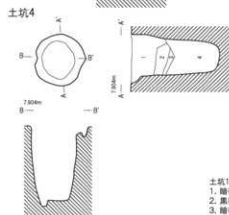
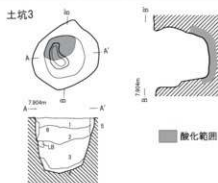
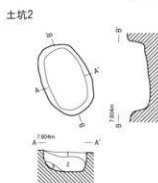
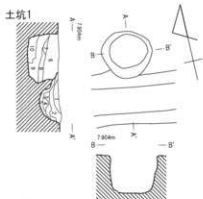
溝3は調査区西端から9m東側で直角に南側へ曲がり4.5mで立ち上がり消滅する。溝3が直進した先の1.8m南には土坑1があり、溝2とは90°の位置関係にある。土坑4・5と重複し、土坑より古い。出土遺物から時期は中世。

(2) 土坑・ピット

土坑7基を検出した。土坑は径1m前後の円形のものが多く、特に土坑3・6・7は底から壁まで酸化しており、井戸もしくは水抜き穴の可能性が高い。

第48表 松山遺跡第41地点遺構一覧表 (単位cm)

番号	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝1	断面U字形	28~110	16~58	5~37	陶器、瓦質土器、類漆器、磁石出土
溝2	断面U字形	72~122	34×60	21~40	銭貨、陶器、瓦質土器かわらけ、瓦石、板石出土。土坑1より新。
溝3	断面U字形	35~72	18×42	15~19	陶器出土。土坑4・5より旧。
溝3P1	円形	44×36	18×16	32	
溝3P2	円形	32×32	12×8	53	
土坑1	円形	84×74	60×53	54	
土坑2	楕円形	115×77	97×59	34	土師器出土
土坑3	円形	107×91	35×12	88	
土坑4	円形	80×78	60×50	137	陶器、石製品出土
土坑5		×70	×35	16	
土坑6	円形	94×89	18×16	95	瓦質土器出土
土坑7	円形	108×103	48×48	64	田P1



土坑1・溝2C

1. 暗褐色土 締り有、粘性無、ローム粒(1~3mm)少量
2. 黒褐色土 締り有、粘性やや有、ローム粒(1~3mm)少量
3. 暗褐色土 締り有、硬く、粘性強、ローム粒(1~3mm)極多量
4. 暗褐色土 締り有、硬く、粘性有、ローム粒(1~3mm)極少量
5. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム粒(1~3mm)多量、ローム塊少量
6. 黒褐色土 締り有、粘性強、ローム粒(2~5mm)極多量、ローム塊(1~3cm大)やや少量
7. 黒褐色土+ローム粒 締り有
8. 黒褐色土 締り弱、粘性強、ローム塊(1cm大)多量
9. ローム主体 締り弱、黒褐色土層入
10. ローム主体 締り弱

土坑4

1. 暗褐色土 締りやや有、粘性やや有、ローム粒(2~5mm)少量
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、ローム粒(2~5mm)多量、ローム塊(1cm大)少量
3. 暗褐色土 締りやや有、粘性強、ローム粒(2~5mm)極多量
4. 暗褐色土 締り弱、粘性なし、ローム粒(2~5mm)多量
- 1・2・3・4層 溝3より新しい

土坑5

1. 暗褐色土 締り有、粘性無、ローム粒(1~3mm)やや多量、銀土粒(2~5mm)極少量、炭(1~3mm)少量
2. 黒褐色土 締りやや有、粘性強
3. 黒褐色土 締りやや有、粘性強、ローム粒(1~3mm)極多量
4. 暗褐色土 締り有、粘性やや有、ローム粒(1~3mm)多量、酸化土芯付、炭(1cm大)少量、層状に3寸程度
5. 黒褐色土 締りやや有、粘性やや有、ローム粒(1~3mm)少量
6. 暗褐色土 締り弱、粘性やや有、ローム粒(1~3mm)やや多量
7. 黒褐色土+ローム粒 締り弱、粘性強
8. 暗褐色土 締り弱、粘性強、ローム粒(1~3mm)極多量

土坑2

1. 黒褐色土 締り弱、ローム粒(2~5mm)多量
2. 黒褐色土+ローム塊+暗褐色土塊 締り弱
3. ローム塊+暗褐色土塊 締り弱

土坑3

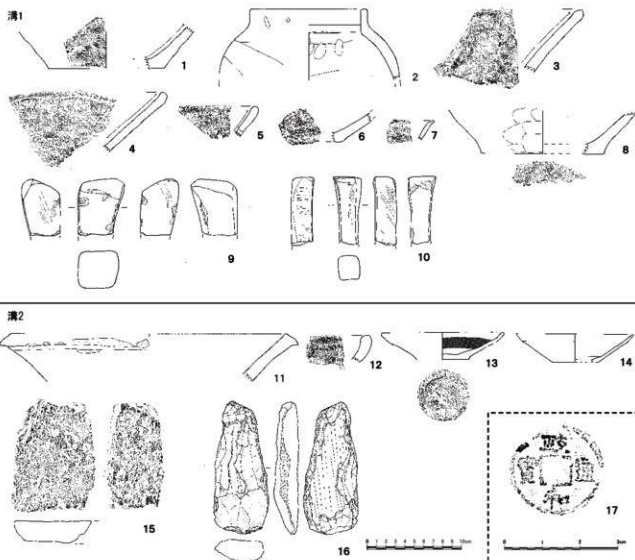
1. 黒褐色土 締り有、硬く、ローム粒(1~3mm)少量
2. 黒褐色土 締り有、硬く、ローム粒(2~5mm)多量、ローム塊(1cm大)少量
3. 黒褐色土 締り有、硬く、ローム粒(1~2mm)極少量、酸化土(多い)含む
4. 黒褐色土 締り弱、ローム粒(2~5mm)極多量
5. 黒褐色土 締り有、ローム塊多量
6. 黒褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)多量

溝3+土坑5

1. 黒褐色土 締り有、粘性強、ローム塊(2~5cm大)多量
2. 黒褐色土 締り有、粘性強、ローム粒(2~5cm大)多量

土坑7

1. 暗褐色土 締り有、粘性無、ローム粒(1~2mm)少量
2. 褐色土+ローム塊+暗褐色土 締り有
3. 黄褐色土+ローム塊+黒褐色土 締り有
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(1mm)少量、酸化土含む
5. 褐色土 締り弱、粘性やや有、ローム粒(2~5mm)極多量
6. 黒褐色土 締り有、粘性有



第97図 松山遺跡第41地点出土遺物 (1/4)

(単位:cm)

第49表 松山遺跡第41地点出土遺物観察表

遺構	No.	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	器高・厚	技法/文様/その他	推定生産地	推定年代	残存・備考
溝1	1	焼締陶器・片口鉢		(12.4)		縦積み成形、下半指頭圧痕、灰裏砂底/内面磨耗	常滑	15世紀～16世紀	底部破片
溝1	2	瓦質土器・甕		(12.4)		縦積み成形、口縁部内面横方向の撫で、体部内面指頭痕。外面横方向の撫で/長石砂礫粒多量。	在地	13～14世紀	口縁部破片
溝1	3	瓦質土器・鉢				縦作り成形、口縁部横撫で。外面指頭痕と横方向の撫で/内面磨耗/長石砂礫粒多量。	在地	14世紀	口縁部破片
溝1	4	瓦質土器・鉢				縦作り成形、口縁部横撫で。外面指頭痕と横方向の撫で/内面磨耗/長石砂礫粒多量。	在地	14世紀	口縁部破片
溝1	5	瓦質土器・鉢				縦作り成形、口縁部横撫で/内面磨耗、補修孔有り/長石砂礫粒多量。	在地	14世紀	口縁部破片
溝1	6	瓦質土器・鉢				縦作り成形/内面磨耗/長石砂礫粒多量。	在地	13～15世紀	底部破片
溝1	7	須恵器・坏				轆轤成形/口縁部外反する。	在地	9～10世紀	口縁部破片
溝1	8	瓦質土器・鉢		(13.2)		縦作り成形、静止糸切。外面指頭痕と横方向の撫で/長石砂礫粒多量。雲母片少量。	在地	13～15世紀	底部破片
溝1	9	石製品・砥石	(5.8)	4.8	4	表面側上5面砥面。中央括れる。	砂岩		1/2以下残存
溝1	10	石製品・砥石	(7.1)	3.1	2.4	表面側4面砥面。中央括れる。	凝灰岩		1/2以上残存
溝2	11	焼締陶器・片口鉢	(19.0)			縦積み成形、口縁横撫で/内面磨耗	常滑	15世紀後半	口縁部破片
溝2	12	瓦質土器・鉢				縦作り成形、口縁部横撫で。外面指頭痕と横方向の撫で/内面磨耗/長石砂礫粒多量。	在地	14世紀	口縁部破片
溝2	13	土器・カワラケ	12.8	5.6	2.9	ロケウ成形。回転糸切り(右)/口縁部内溝。見込み外周は指撫で、/赤色粒子少量含む。内面煤付着。胎土粉質。外面表面剥落。	在地	16世紀	3/4以上残存
溝2	14	土器・カワラケ	(12.4)	(4.8)	3.0	ロケウ成形。回転糸切り(右)/口縁部内溝/赤色粒子少量含む。	在地	16世紀	1/2以下残存
溝2	15	石製品・板押			2.3	「蓮座」右側の印刷有り	凝泥片岩		
溝2	16	石器・打製石斧	14.1	5.8	2.6	重量288.1g。	マンフレロス	縄文時代	完形
溝2	17	銭貨・銅銭・政和通宝	径2.44	孔幅0.59	0.11	重量1.42g。		北宋1111年	3/4以上残存

第3章 江川南遺跡第22地点の本調査

I 本調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、2006年10月11日から11月6日まで行なった試掘調査に基づき申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

本調査は2006年11月7日から開始し、礫や石器を検出した範囲のローム層を人力で除去しつつ出土遺物を残し、土層図・遺物出土状況図・調査区域図の平板測量と写真撮影を行い、同年11月9日調査を終了した。検出した遺構は旧石器時代の礫群5基である。

II 遺構と遺物

(1) 礫群

調査区南側に礫群を5基検出した。本遺跡は福岡江川右岸の平坦地から斜面地にかけて旧石器時代の礫群及び石器集中が分布し、本地点の他に第2・11・19・

23地点の5ヶ所で検出している。第19地点は川から100mの最奥部、第2地点は河川脇に立地する。本地点は最も東側に位置する。

立川ローム層第4層下部からV層上部にかけて検出した。礫群は5ヶ所の集中が認められ、0.5~3.2m間隔で散在する。礫群3・4は間に攪乱が入っており、本来同一の礫群であった可能性もある。礫群2, 礫群5は密集箇所が認められる。

各礫群を構成する礫の属性は第50表のとおりで、礫全体の約9割が被熱により赤化するが、礫群3・4では赤化した礫の比率が低い。

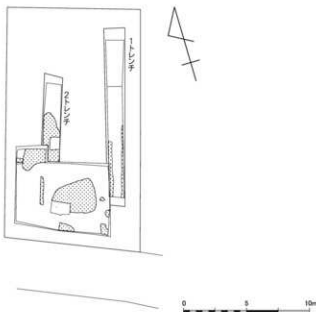
完形礫数は全体の約3割、その他の礫は被熱して割れている。

石器は礫群2と礫5から計27点出土した。うち遺構外出土のナイフ形石器と剥片を図示した。

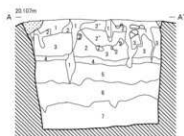
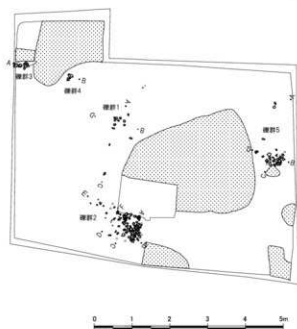
第50表 江川南遺跡第22地点礫群一覧表

(単位:cm・g)

No.	平面形態	礫範囲	厚さ	礫数	重量	赤化				僅・テール				完形礫 (%)				備考
						個数	重量	個数比	重量比	個数	重量	個数比	重量比	個数	重量	個数比	重量比	
1	散在	180 × 75	21	14	800	13	793	92.9%	89.1%	8	537	57.1%	60.3%	3	258	21.4%	29.0%	
2	密集	165 × 90	20	84	8,329	72	8,473	85.7%	94.9%	19	2,737	22.6%	30.7%	11	3,670	13.1%	41.1%	剥片20点
3	散在	20 × 25	8	5	963	3	576	60.0%	86.9%	0	0	0.0%	0.0%	0	0	0.0%	0.0%	
4	散在	45 × 25	10	18	2,041	9	1,687	50.0%	82.7%	1	284	5.6%	18.8%	1	234	5.6%	11.5%	
5	散在	95 × 45	17	38	2,882	35	2,828	92.1%	98.1%	9	756	23.7%	26.2%	2	641	5.3%	22.2%	黒曜石剥片7点
合計				159	15,405	132	14,357	83.0%	93.2%	37	4,414	23.3%	28.7%	17	4,803	10.7%	31.2%	

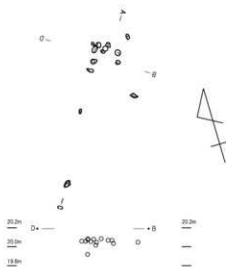


第98図 江川南遺跡第22地点遺構配置図 (1/300)

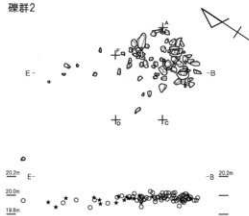


1. 暗黄褐色土 粘り有、粘性有、ソフ色したローム層、ハートローム塊(2cm以下)含む、炭屑を含む
2. 黄褐色土 粘り強い、粘性有、粉状の白色粒、赤色粒(1mm以下)・黒色粒(3mm以下)少量(立川ロームV層相当か)
- 2' 暗黄褐色土 粘り強、粘性有、3層と2層の中間的な色調、3層中に2層土が混ざり込んだ層相、粉状の白色粒と赤色粒(1mm次)やや多量、黒色粒(1mm以下)少量
3. 暗黄褐色土 粘り強、粘性有、粉状の白色粒と黒色粒(3mm以下)やや多量、赤色粒(2mm以下)少量
塊状の暗黄褐色ロームが点在する(立川ロームV層相当か)
4. 黄褐色土 粘り強、粘性有、3層と5層に比し色調明るめ、シロ目に明黄褐色ロームを含む、粉状の白色粒・黒色粒(1mm以下)少量、赤色粒(2mm以下)少量だがやや目立つ(立川ロームVI層相当か)
5. 暗黄褐色土 粘り強、粘性有、黒色粒(2mm以下)多量、褐色粒(3mm以下)・赤色粒(2mm以下)やや多量、赤灰色粒(2mm以下)わずか(立川ロームIV層相当か)、最下部に色調が明るい土を部分的に含む
6. 暗黄褐色土 粘り強、粘性有、上層に比し色調濃い、赤色粒・褐色粒(2mm以下)やや多量、黒色粒(2mm以下)少量、黄灰色粒(2mm以下)わずか(立川ロームX層相当か)
7. 黄褐色土 粘り強、粘性有、赤色粒(1mm以下)少量、黒色粒(1mm以下)わずか、円礫(10mm次)わずかが目立つ
全体的に含有物は少ない(立川ロームX層相当か)、下層は色調やや濃い

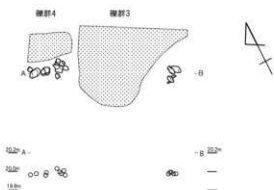
礫群1



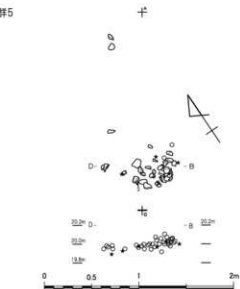
礫群2



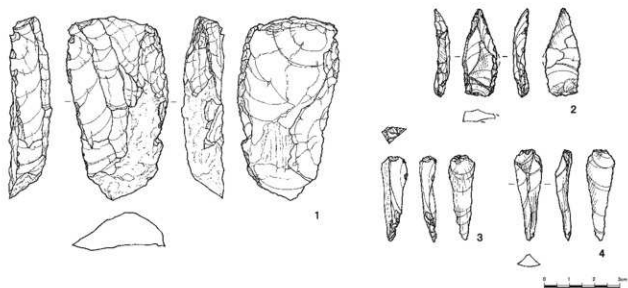
礫群3・4



礫群5



第99図 江川南遺跡第22地点礫群(1/100)土層図・出土状況(1/40)

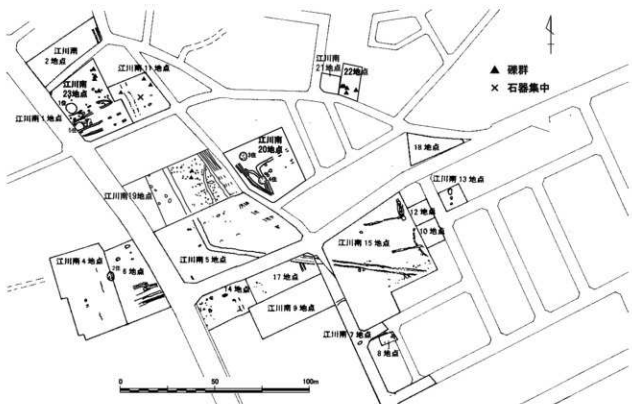


第100図 江川南遺跡第22地点礫群出土石器 (2/3)

第51表 江川南遺跡第22地点出土石器計測表

(単位:cm・g)

遺構	No	種別・器種	口径・長	底径・幅	器高・厚	重量	技法/文様/その他	推定産地	推定年代	残存・備考
棟2, No2	1	石器・フレーク	7.3	3.9	1.3	43.7		チャート	旧石器時代	定形
遺構外, No6	2	石器・ナイフ	3.5	1.4	0.5	2.31		黒曜石	旧石器時代	定形
棟5, No10	3	石器・射(調整剥片)	3.4	1.0	0.70	1.04		黒曜石	旧石器時代	定形
棟5, No17	4	石器・射(調整剥片)	3.7	1.1	0.5	1.08		黒曜石	旧石器時代	定形



第101図 江川南遺跡遺構分布図 (1/2,000)

第52表 江川南遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	亀久保121-1	1977.8.30～9.30	64	町史編纂事業	縄文中期:住居跡1軒(1号)	大井町史料7集
2	東久保1-120-3	(1991.5.28～5.31) 1991.6.1～	580	共同住宅	旧石器:雑群3,縄文土器片,中世:堀跡	東部遺跡群X I
3	鶴ヶ舞1-110-5	(1992.8.25)	646	資材置場	鶴ヶ舞遺跡第3地点として報告 遺構・遺物無し	町内遺跡群 I
4	亀久保192	(1995.8.28～9.21)	825	産業建設	縄文中期:住居跡1軒(2号)・土器・石器、 近世以降:土坑24基、井戸1基、礎土跡1 近世以降:陶磁器	町内遺跡群V
5	東久保1-194-195の一部	(1996.8.5～8.8) 1996.8.20～8.29	2,092	店舗	縄文:ビット10,溝4本,中世:堀跡	町内遺跡群VI・ 調査会報告14集
6	亀久保(旧地蔵院遺跡第1地点)	(1985.10.17～11.8)	837	町史編纂	縄文中期:土坑4基,近世以降:池状遺構1,塼状 遺構1,溝3本,肥前系磁器,灯明皿、 古銭,神官出土	町内遺跡群V
7	亀久保3-193	(2003.4.16～4.24)	929	店舗	平成15年3月調査,2号住居の続き検出	町内遺跡群X II
8	東久保196-1他	1996.11.19～2.13	1,322	区画整理道路	縄文:落し穴2基,中世:堀跡,近世以降:溝、 ビット2	調査会報告14集
9	東久保7街区1両地	(1997.10.13～10.15)	50	墓地移転	縄文:落し穴1基,ビット4,かわらけ片1点	町内遺跡群VII
10	東久保1街区2-3両地	(1998.10.6～10.9)	875	共同住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群VIII
11	東久保2街区9-10両地	(1999.5.24～5.26)	133	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
12	東久保1-122-2+4	(1999.9.20～9.27) 1999.9.28～10.15	465	共同住宅	旧石器:石器ブロック4基,雑群5基、 中世:堀跡,土坑1基,旧石器コンテナ2箱、土器 片コンテナ2箱,銭貨	町内遺跡群IX
13	東久保2街区4・5両地	(1999.10.26～10.28)	104	個人住宅	遺構無し,縄文:無文土器片1点	町内遺跡群IX
14	東久保3街区21両地	(2000.6.7) 2000.6.8～6.21	123	個人住宅	縄文:集石土坑3基,土坑1基	町内遺跡群X
15	東久保1街区1両地	(2000.7.5～7.10) 2000.7.10～7.18	461	店舗	縄文:ビット20,近世以降:横列1本,溝1本、土 坑1基,ビット3	町内遺跡群X
16	東久保2街区1両地	(2000.12.8～12.26) 2001.1.10～1.19	2,375	共同住宅	中世:堀跡1本,溝3本,横列1本,ビット、 旧石器:黒曜石割片,縄文:土坑1基,ビット縄 文土器片,近世:陶磁器片	町内遺跡群X・調 査会報告14集
17	東久保1街区	(2002.9.24～10.4)	3,752	給油所	遺構・遺物無し	町内遺跡群X II
18	東久保196-1 (1街区20-23両地)	(2002.10.29～11.11)	474	宅地分譲	ビット6,溝2,堀跡,旧石器,土器片,石器	町内遺跡群X II
19	東久保285-51,52他	(2003.7.11～2003.7.16)	240	共同住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群X II
20	東久保1-185-1	(2003.9.18～10.8) 2003.10.10～11.14	1,129	店舗	雑群,土坑22,ビット69,堀跡,溝 旧石器:石器群3	町内遺跡群X II
21	東久保1-183-5	(2005.8.1～8.11) 2005.8.18～9.10	951	分譲住宅	縄文中期住居2軒(3号,4号),集石土坑5,ビ ット1,溝6	調査会報告18集
22	東久保1-29-1	(2006.10.10)	99	個人住宅建設	遺構・遺物無し	市内遺跡3
23	東久保132-11	(2006.10.11～11.6) 2006.11.7～11.9	206	分譲住宅	旧石器雑群5基	市内遺跡3
24	東久保1丁目121番1	(2007.1.24～2.1) 2007.2.19～3.16	1,011	分譲住宅	旧石器雑群6基,縄文中期住居2軒(1号,5号), 集石土坑2,土坑2,ビット30,溝4	市内遺跡3

第53表 江川南遺跡住居跡一覧表

(単位cm)

目的 番号	調査年	平面形 ()は想定	規模	形		埋裏	周溝	噴溝	備考	時期	文献
				地床	石囲						
1号	完掘	円形	528×528×40	○		○	有		土石伊	亀居3期, 亀居I新	調査会報告8集
2号	55%	楕円形	550×200×40		○				東平木堀	亀居5期, 亀居II新	調査会報告8集
3号	完掘	楕円形	428×350×40	○		○	有			亀居5期, 亀居II新	調査会報告18集
4号	完掘	円形	408×402×38	○		○	有		床面も1部削平	亀居4期, 勝坂II古	調査会報告18集
5号	完掘	楕円形	440×400×46	○		○			溝一部削平	亀居-新道新	市内遺跡群3

第4章 江川南遺跡第23地点の本調査

I 本調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、2007年1月24日から2月1日まで行なった試掘調査に基づき申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

本調査は2007年2月19日から開始し、遺構を確認した範囲の表土を重機により除去し、人力による表面精査で遺構範囲を確認した。調査区内には6m方眼のグリッドを設定し杭打ちを行った。遺構調査は人力で覆土を除去しつつ出土遺物を残し、遺物出土状況図・土層図・遺構平面図・調査区域図等をやり方測量及び平板測量で実測、写真撮影を行った。

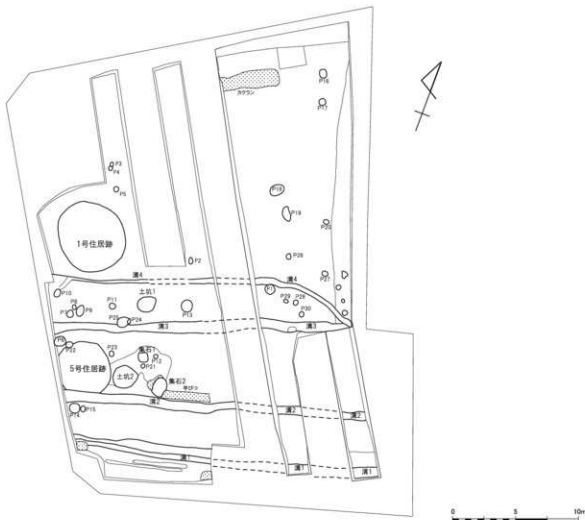
縄文時代以降の調査終了後、礫や石器を検出した範囲にグリッドを設定し旧石器時代の調査を行った。ローム層を人力で除去しつつ出土遺物を残し、土層図・

遺物出土状況図のやり方測量と写真撮影を行い、同年3月16日調査を終了した。検出した遺構は旧石器時代の礫群5基、縄文時代中期の住居跡1軒、集石2基、土坑2基、ピット30基、溝4条である。

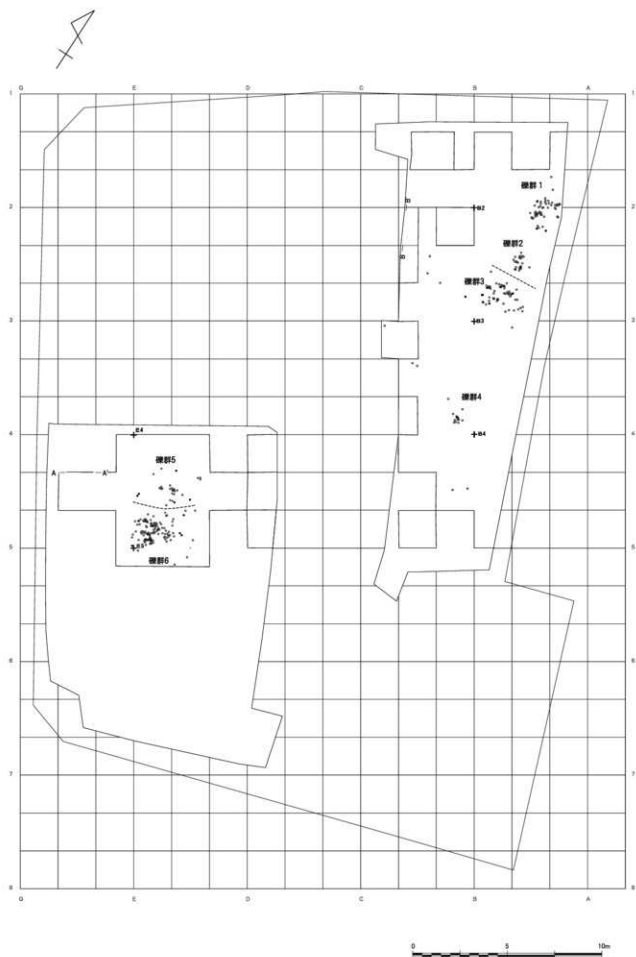
II 遺構と遺物

(1) 礫群

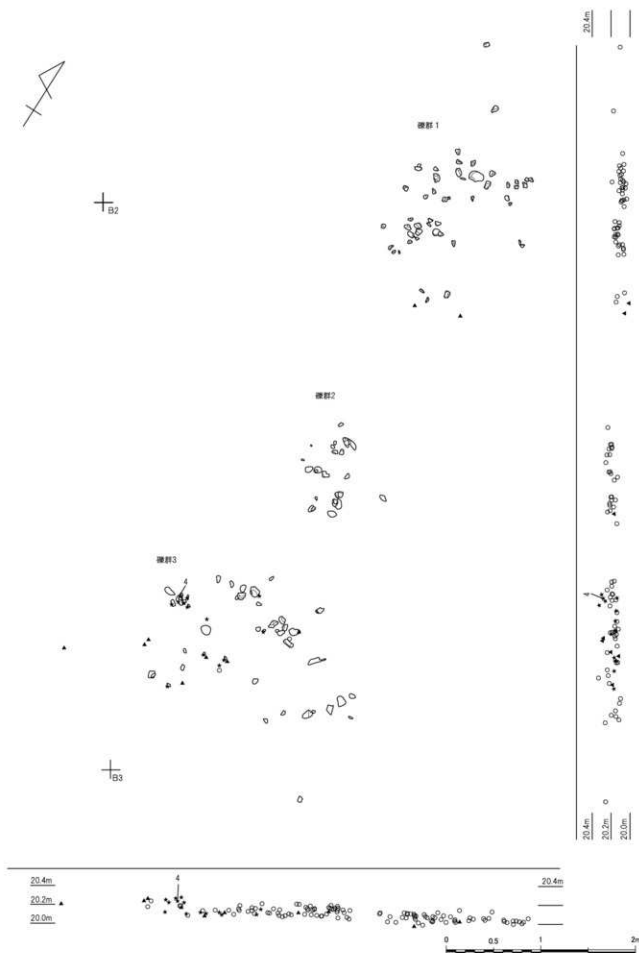
調査区北東のA2区に4基、調査区中央のD4区に2基礫群を検出した。本遺跡は福岡江川右岸の平坦地から斜面地にかけて旧石器時代の礫群及び石器集中が分布し、本地点の他に第2・11・19・22地点の四ヶ所で検出している。第19地点は川から100mの最奥部、第2地点は河川脇に立地する。本地点は最も低地の第2地点と隣接し、東側で隣接する第11地点とともに礫群と石器集中の密集地帯に位置する。



第102図 江川南遺跡第23地点遺構配置図 (1/300)

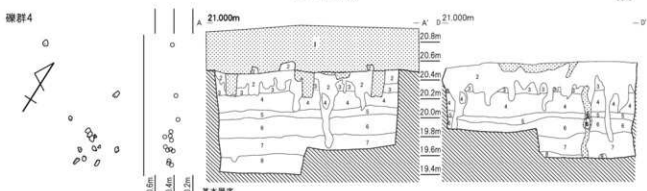


第103図 江川南遺跡第23地点旧石器時代遺物出土状況 (1/200)



第104図 江川南遺跡第23地点礫群1・2・3遺物出土状況(1/40)

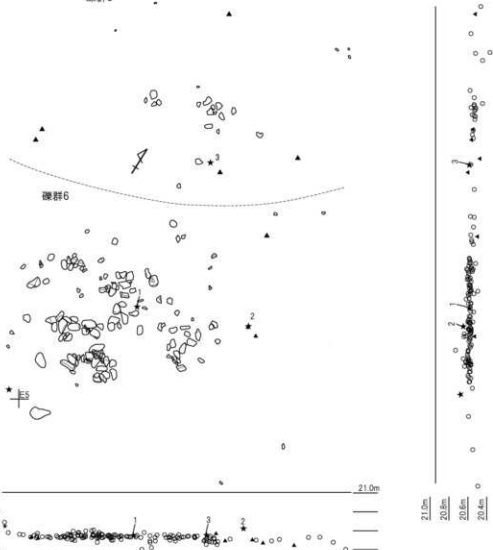
塚群4



基本層序

1. 暗褐色土 緑褐色、ローム塊(5~20mm)・ローム粒(2mm以下)少量、包含層のベースとなる土、褐色スコア、微細な白色粒をわずかに含む
2. ソフトローム 緑褐色、立川ローム互層相当、樹根状に下部へ延びる、上部は明るい色調のローム塊を含み深度に応じてスコアの混入度合いや色調が異なる、褐色スコア(0.5~1mm)・微細白色粒(0.5mm以下)少量含む
3. 明黄褐色ハードローム 緑褐色、褐色スコア(0.5~2mm)やや多量、微細白色粒(0.5mm以下)やや多量、黒色粒(0.5~2mm)少量立川ローム互層相当
4. 暗黄褐色ハードローム 緑褐色、微細白色粒(0.5mm以下)やや多量、黒色粒(0.5~2mm)やや多量、褐色スコア(0.5~2mm)下半部に集中して少量、色調は明るめ、立川ロームV相当層
5. 明黄褐色ハードローム 緑褐色、褐色スコア(0.5~2mm)やや多量、黒色粒(0.5~2mm)多量、微細白色粒(0.5mm以下)少量、黒褐色土が散在して自立立、立川ローム互層相当
6. 暗黄褐色ハードローム 緑褐色、褐色スコア(粒径大)少量、微細白色粒(0.5mm以下)少量、上半部に色調の明るい土をやや多量に含み若干葉状を呈する、立川ローム互層相当
7. 暗黄褐色ハードローム 緑褐色、色調は上部に比し緑しい、黒色粒(0.5~2mm)わずか、褐色スコア(粒径大)やや多量、微細白色粒をわずかに含む 立川ローム互層相当
8. 明黄褐色ハードローム 緑褐色、シタ状の黒色粒をわずか、円礫(15mm大)少量、褐色スコア(1mm大)をわずかに含む

塚群5



塚群6

第105図 江川南遺跡第23地点塚群4・5遺物出土状況、土層図(1/40)

立川ローム層第IV層及びソフトロームに検出した。

A2区の礫群は4ヶ所の集中が認められ、1～5m間隔で散在する。D4区の礫群はA2区の礫群から約15m離れて検出し、礫群6などはかなり密集している。

礫群1や礫群4、礫群5は広範囲に散在しているが、礫群2、礫群3には30～40cmの密集箇所が認められる。特に礫群6は密集度が高く50cmほどの密集箇所が5ヶ所ほど認められる。

各礫群を構成する礫の属性は第51表のとおりで、礫全体の約8割が被熱により赤化する。礫群1と礫群4では赤化した礫の比率が低い。

完形礫数は全体の約2割、その他の礫は被熱して割れている。礫群6で完形のままの礫の比率が高く、礫群1と礫群5の完形率が低い。

石器は19点出土し、うち5点を図化した。

第54表 江川南遺跡第23地点礫群一覧表

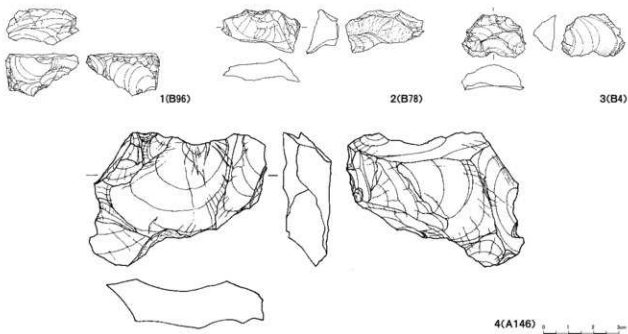
(単位:cm・g)

No.	平面形態	礫範囲	厚さ	礫数	重量	赤化				破・テール				完形礫(%)				備考
						個数	重量	個数比	重量比	個数	重量	個数比	重量比	個数	重量	個数比	重量比	
1	散在	230 × 170	10	50	4,728	34	3,562	68.0%	75.3%	26	3,065	52.0%	65.5%	3	1,433	6.0%	30.3%	黒曜石割片2点
2	散在	110 × 90	44	23	4,164	22	3,019	95.7%	72.5%	7	1,382	30.4%	33.2%	4	1,118	17.4%	26.8%	
3	散在	230 × 170	10	37	7,334	31	6,849	83.8%	90.9%	5	1,339	13.5%	17.8%	6	2,987	16.2%	39.6%	黒曜石割片7点
4	散在	80 × 50	44	14	891	9	493	64.3%	55.3%	4	254	28.6%	28.5%	2	203	14.3%	32.9%	
5	散在	140 × 80	10	20	2,028	17	1,757	85.0%	86.6%	6	572	30.0%	28.2%	0	0	0.0%	0.0%	黒曜石割片6点
6	密集	250 × 180	44	127	34,487	102	29,054	80.3%	84.2%	22	10,045	17.3%	29.1%	40	19,439	31.5%	56.4%	黒曜石割片4点
合計				271	53,832	215	44,734	79.3%	83.1%	70	16,687	25.8%	31.0%	55	25,270	20.3%	46.9%	

第55表 江川南遺跡第23地点出土石器計測表

(単位:cm・g)

遺構	No	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	器高・厚	重量	技法/文様/その他	推定産地	推定年代	残存・備考
礫群6	1	石器・石核	1.75	2.9	1.45	4.81		黒曜石	旧石器時代	
礫群6	2	石器・石核	1.75	3.1	1.25	3.85		黒曜石	旧石器時代	
礫群5	3	石器・ノッチ	1.70	2.50	1.05	2.70		黒曜石	旧石器時代	完形
礫群3	4	石器・石核	5.30	6.95	1.90	69.18		黒色頁岩	旧石器時代	



第106図 江川南遺跡第23地点礫群出土石器(2/3)

(2) 5号住居跡

【位置】調査区の南西に位置する。江川南遺跡縄文集落内では5軒目の住居跡である。5.5m北側には大井町史前編纂事業で1977年に調査した1号住居跡がある。

【形状】南側の一部を溝により削平されるが、ほぼ全面を検出した。平面形態はわずかに楕円形を呈し、規模は主軸方位の南北方向で4.4m以上、東西4.0m。確認面から床面の深さは38cm、壁は若干緩やかに立ち上がり、床面はほぼ平坦である。

【炉】炉は深鉢を転用した埋燗炉。径37×32cm・深さ22cmのビットに口縁部と底部を打ち欠いた土器を埋設する。打ち欠いた口縁部破片の一部は炉体土器外側から出土しており、土器埋設時に口縁部破片を埋め込んでいた。ビットの壁は被熱し硬化している。炉内堆積土中の焼土は少ない。炉体土器は新道式。

【ビット】8基検出した。P1～P4・P6が主柱穴の4本柱と思われる。P2とP6は建て替えがあったと思われるが新旧関係は不明。柱の間隔はP1～P2間とP3～P4間が2.3m、P2～P3が1.5m、P1～P4が1.65mである。P3の底近くに深鉢胴部が横位で出土したほか、打釘3点が出土している。

【時期】炉体土器から新道式期。

第56表 江川南遺跡5号住居跡ビット一覧表 (単位:cm)

平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	隅丸方形	26×23	14×12	49
P2	円形	25×21	11×8	44 土器
P3	隅丸長方形	28×23	14×12	39 深鉢、打釘
P4	隅丸長方形	25×21	14×12	39 黒曜石
P5	円形	25×23	15×15	15
P6	円形	21×19	11×6	47 斜向
P7	楕円形	27×15	7×5	35
P8	楕円形	25×20	12×8	21

(3) 集石土坑

1号住居跡と5号住居跡の近くに2基検出した。時期は縄文中期。

(4) 土坑・ビット

土坑2基、ビット30基を検出した。時期は縄文時代。

(5) 溝

調査区南側に4条検出した。いずれも東西方向で平行、溝4は東西方向から南北方向へカーブする。溝1～溝2間は溝の中心幅で4.0～4.5mの間隔がある。溝2～溝3は5.0～7.0m、溝3～溝4は3.2mである。4

条とも断面形態は「U」字形を呈し、底面は平らである。

第57表 江川南遺跡第23地点遺構一覧表

(単位:cm)

平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝1		65～112	14～18	45 土器
溝2		69～95	8×22	71 土器
溝3		54～89	6×31	12 土器、石炭
溝4		32～52	11×30	39 土器
土坑1	楕円形	157×121	112×73	39
土坑2	楕円形	163×135	136×106	42 土器
P1	楕円形	93×69	6×6	68
P2	楕円形	68×50	20×17	83
P3	円形	32×30	6×6	66
P4	円形	40×36	21×17	16
P5	円形	39×37	22×20	12
P6	楕円形	(95)×73	6×6	59
P7	円形	55×52	33×27	31 土器
P8	円形	35×29	11×29	48
P9	楕円形	91×60	32×30	36
P10	楕円形	69×49	50×31	25 土器
P11	円形	53×49	32×24	16
P12	方形	32×28	19×16	24 土器
P13	円形	93×91	56×56	31 土器、黒曜石
P14	円形	82×80	64×50	38
P15	楕円形	47×33	33×26	29
P16	方形	67×55	56×45	33
P17	円形	52×47	(12)×(7)	31
P18	楕円形	122×83	103×71	24 土器
P19	楕円形	112×59	95×44	19
P20	円形	43×42	29×24	23
P21	円形	34×31	7×7	24
P22	(円形)	55×(42)	41×(36)	21 土器
P23	円形	40×37	16×11	28
P24		37×22	20×12	26 P25と接続
P25	楕円形	97×75	8×5	49 土器、チャート
P26	楕円形	50×40	25×24	57 土器、黒曜石
P27	楕円形	45×36	16×6	48
P28	円形	39×39	21×20	58
P29	楕円形	35×25	13×13	36
P30	円形	43×42	31×23	11